

編集方針

「グンゼ統合レポート2019」は、グンゼグループの財務情報・非財務情報レポートとして編集しています。2018年度(2018年4月1日～2019年3月31日)の活動を中心に、一部2019年4月以降の報告も含まれています。また、ご紹介する関係者の所属・役職名は活動当時のものです。このほか、ステークホルダーの皆さまに、より当社についてご理解いただけるよう網羅的かつ詳細な情報を以下の通りホームページでも公開しています。

財務情報

- 株主・投資家情報
<https://www.gunze.co.jp/ir/>

非財務情報

- CSR
<https://www.gunze.co.jp/csr/>
- 企業情報
<https://www.gunze.co.jp/corporate/>



経済産業省「価値協創ガイド」を参照しています。



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社が独自に設定する「SNAMサステナビリティ・インデックス」の構成銘柄に8年連続選定。同インデックスは、調査会社によるESG評価を重視する運用プロダクト「SNAMサステナブル運用」に活用される。

免責事項

このレポートには、グンゼグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した事項および所信に基づく見込みです。

グンゼ株式会社

〒530-0001 大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKA オフィスタワー
お問い合わせ先: コーポレートコミュニケーション部 広報IR室
TEL: 06-6348-1314 FAX: 06-6348-4814
<https://www.gunze.co.jp/>



発行 2019年7月

明日をもっと、**こ**こちよく
GUNZE

Link to the future



グンゼ統合レポート 2019



「人間尊重と優良品の生産を基礎として、
会社をめぐるすべての関係者との
共存共栄をはかる」（創業の精神）

1909年（明治42年）、当時最大のお客さまだったアメリカの織物業者スキンナー商会の
来訪を綾部駅ホームで迎える 創業者 波多野鶴吉（前列中央）、葉那夫人（前列左）。

グンゼは今年で124年目を迎えます。

京都府何鹿郡（現在の京都府綾部市）出身の創業者 波多野鶴吉は、
人々の生活を豊かにするため、地場産業である蚕糸業を通じて
地域の振興をはかりました。

1896年に「郡の方針（是）」として郡是製絲株式会社を設立。

以来、社会や経済情勢の変化に柔軟に対応し、進化をとげてまいりました。
これからも私たちは、創業の精神を継承し、ステークホルダーの皆さまとの
共存共栄をはかり、社会に貢献してまいります。

これは「誰一人取り残さない」を理念とする持続可能な開発目標「SDGs」に
通じるものと確信しています。

グンゼグループが 伝えたいこと

CONTENTS

1 価値創造ストーリー

継承してきた創業の精神と
価値創造を支える経営基盤、
グンゼグループの将来像について

P.3 トップコミットメント
P.5 脈々と受け継がれるグンゼの経営理念
P.7 グンゼ、123年のあゆみ
P.9 グンゼグループの価値創造モデル

2 事業紹介と成長戦略

グンゼグループの収益力の
基盤を支える事業構造や
2018年度実績と、
さらなる成長への戦略について

P.11 機能ソリューション事業
P.13 アパレル事業
P.15 ライフクリエイイト事業

3 グンゼのデータ

グンゼグループを
より理解いただくための
財務情報、非財務情報データ

P.17 財務・非財務情報
P.19 グンゼの資本コスト経営
P.20 グンゼのマテリアリティ

4 CSVに向けた取り組み

持続可能な事業と社会の発展を
目指し、グンゼグループが考える
マテリアリティとその取り組み

P.21 共通価値の創造（CSV）に向けた
2020年度の目標
P.23 QOLの向上への貢献
P.27 緑豊かな環境づくりと環境問題対応
P.29 職場環境改善・働き方改革
P.31 より良いコミュニティ・社会づくり

5 経営体制

グンゼグループの経営に対して
信頼をいただくための
コーポレートガバナンス体制に
ついて

P.33 コーポレートガバナンス
P.34 ガバナンスを有効に機能させるために
P.35 内部統制システム

6 CSR活動の推進

地球・社会と企業の
持続的発展を目指し、
社会的責任を果たすべき取り組み

P.36 CSR推進体制
P.37 CSR活動をさらに活性化するために
P.38 会社概要

CSV経営を強化し、顧客満足と 企業価値向上をはかる



グンゼの原点は社会貢献

グンゼは1896年(明治29年)京都府何鹿郡(現在の綾部市)に設立されました。

単に企業としての利潤追求ではなく、「郡の方針(是)として地場産業を発展させ、何鹿郡を豊かにする」という創業者の強い思いを「郡是(グンゼ)製絲株式会社」という社名に託しました。

この「郡是」という考え方にに基づき、当社グループでは「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」という「創業の精神」を変えてはならない経系(たていと)として現在まで受け継いでまいりました。従いまして、120年を超える当社の歴史の原点は、「創業の精神」に示された社会貢献であり、今日の「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」の考え方そのものであったと確信しています。

2018年度の振り返りと2019年度の取り組み

2018年度は、中期経営計画「CAN 20」のキーコンセプトである「集中と結集」を旗印に、更なる成長と利益重視の方向性のもと、当社差異化技術を活かした付加価値商品の市場拡大とともに、不振事業の構造改革による収益体制構築を進めました。

機能ソリューション事業では、プラスチックフィルム分野及びエンジニアリングプラスチックス分野を中心に好調に推移しました。アパレル事業は、消費者の節約志向と天候影響を受ける中、インナーウエア分野では、BODY WILD「AIRZ」などの差異化商品を新展開するとともに成長販路の取り組みを強化してまいりました。

2019年度は、機能ソリューション事業では、プラスチックフィルム分野は業績が拡大している中、新市場・新商品の

開発とベトナム新工場を立上げグローバル生産体制をさらに強化してまいります。エンジニアリングプラスチックス分野は、主力OA市場向け商品及び半導体関連などの繊維技術製品拡大のため、江南工場の増設を計画しております。メディカル分野は、新たにメディカルユアンドエイ社を子会社化し骨接合材などの拡大を目指してまいります。アパレル事業では、インナーウエア分野は、BODY WILD「AIRZ」の展開店舗拡大に加え、完全無縫製・カットオフ商品、スポーツカテゴリー商品を拡販するとともにECなどの新規販路の拡大をはかってまいります。レグウエア分野は、SABRINAなどの主力ブランドを核とし、市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品開発に努めます。ライフクリエイイト事業では、商業施設の収益力向上とグループの発展に向けて投資効率を考慮した保有資産の有効活用を推進してまいります。

ス』の提供に徹し社会に貢献する」という強い意志をもち、「社会にとって必要とされる企業」「社会とともに持続的に発展する企業」として顧客満足と企業価値のより一層の向上をはかります。

また、2018年6月に改定されたコーポレートガバナンス・コードでは、自社の資本コストを的確に把握したうえで、事業計画や資本政策の策定、事業ポートフォリオの見直しや経営資源の配分、政策保有株式への対応が求められています。

当社グループでも、株主重視の観点からROE(自己資本利益率)をグループ重点指標として掲げ、その向上に取り組んでおります。

今年は、2020年度をゴールとする中期経営計画「CAN 20 第2フェーズ」の3年目を迎え、「セグメント事業戦略」「新規事業創出」「経営基盤強化」の3つの基本戦略により、「CAN 20」最終年度の戦略目標及びKPI指標を見据えた取り組みを着実に進め、次期中期計画へとつなげてまいります。

皆さまのより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

次期中期経営計画に向けて

2021年度から始まる次期中期経営計画については、創業の精神に基づき、循環型社会への貢献を新たなテーマに取り組んでまいります。

海洋プラスチック問題を考慮した環境配慮型製品の開発、脱炭素社会に向けた植物由来原料による製品開発など、地球環境にやさしい新たな事業創出に挑戦します。また、差異化要素にさらに磨きをかけるとともに市場競争力を高めてまいります。そして、メディカル事業などのQOL関連事業を成長エンジンとして、将来に向けた積極的な事業展開を進めていきたいと考えております。

当社では、2018年度から事業活動を通じて社会課題の解決を目指す「CSV経営(CSV=Creating Shared Value: 共通価値の創造)」をSDGsに対応し推進しております。

私たちは、「お客さまへ『こちよ商品、こちよサービス



SDGsの17の持続可能な開発目標



脈々と受け継がれる グンゼの経営理念

「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」という
創業の精神はグンゼのDNAとして
当社の経営理念の中に120年もの長い間
受け継がれてきました。

創業の 精神

人間尊重と優良品の生産を
基礎として、会社をめぐる
すべての関係者との
共存共栄をはかる



当社は1896年、京都府何鹿郡（現在の綾部市）に地域産業であった蚕糸業の振興を目的として設立されました。当時の社名「郡是製絲株式会社」の郡是は、「郡の是（方針）」として会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかり、地域の人々の暮らしを豊かにしたい」という、創業者 波多野 鶴吉の強い思いが込められています。

三つの章句

誠意

一所懸命、これが誠意である。
小事をおろそかにしない。
表裏がない。遅怠がない。
間断がない。
約束を違えない。
責任感も勇気も
これより出で、
知恵もここから生まれる。
成功の基礎である。

愛情

思いやりの心である。
相手の身になって考える。
非礼を行わない。
よく忍耐する。
知恵はここから出て、
人を生かし、事を生かし、
物を生かす。

謙虚

己を空しくして
他から学ぼうとする
精神である。
進歩の母体である。
競争は、きのうの我とする。

三つの躰



三つの躰は、三つの章句を
身につけるための行動

- あいさつをする
- はきものをそろえる
- そうじをする

社 是

第1項
優良品の提供に
徹し社会に
貢献する

第2項
誠意をつくし
信頼の輪を
ひろげる

第3項
若さと創意を
いかし世界の
一流をめざす

社 是

1. 優良品の提供に徹し
社会に貢献する
1. 誠意をつくし
信頼の輪をひろげる
1. 若さと創意をいかし
世界の一流をめざす

1997

環境憲章

地球・社会との
健全な持続発展を
促進するために
グンゼグループ
環境憲章を制定

企業市民としての
果たすべき活動と
行動を行動規範で
明記

行動規範

- 第1章 グンゼが果たすべき役割
- 第2章 企業活動において守るべきルール
- 第3章 企業活動において個人が
心がけるべき事項

2007

CSR基本方針

- 1 消費者の
ために
- 2 取引先との
関係において
- 3 地域社会の
ために
- 4 従業員との
関係において
- 5 地球環境の
ために
- 6 株主・投資家
のために

企業としての
コミットメントを
社会に開示

2012

ブランド 憲章

お客さまの
「こちよさ」の
ために

グンゼブランドの
社内外との約束として
ブランド憲章を制定

ブランド憲章

世界のより多くの人々に「こちよさ」をお届けしたい
そのために私たちは人を想い 暮らしを見つめ
お客さま起点で「こち品質」を追求します
そして「毎日のこち満足」を高めお客さまとともに
「こちよいライフスタイル」を創造し続けます

2019

CSR調達 ガイドライン

- 1 公平な参入
機会の提供
- 2 公正な
サプライヤーの
選定
- 3 最適な地域
からの調達
- 4 地球環境保全と、
環境の
負荷低減
- 5 法令・社会
規範の順守
- 6 情報の適切な
管理・保護

サプライチェーン
全体での
CSR調達の実現

グンゼ、123年のあゆみ

グンゼは製品やサービスの提供を通じて
時代に求められた社会課題の解決に取り組んできました。
それぞれの分野で業界オンリーワンを目指していきます。

1896～

地場養蚕業の活性化により 地域社会に貢献するため 製糸会社を創業

グンゼの創業者 波多野鶴吉は、地場産業である養蚕農家の実態を目の当たりにし、蚕糸業の体質改善を決意。当時「粗の魁」とまで酷評された京都府の繭、生糸を優良品にすることが急務と考えました。「善い人が良い糸をつくる」との信念により、社員教育を徹底し、優良品の生産を実現しました。



1896年 都製絲株式会社を設立
1917年 都女学校設置

1930～

戦後急速に拡大した アパレル製品(靴下・肌着) で衣生活を改善

アメリカではレーヨン(人絹)が開発され、生糸価格は大きく下落。生糸の代わりとなる二次加工品としてフルファッション絹靴下の製造を開始。戦後ナイロン製靴下生産に舵を切り、価格低下による普及に貢献。また戦後間もなくメリヤス肌着の生産を開始。「金の品質、銀の価格」を標榜し、「なぜ」を深く掘り下げることが追求。その高品質により「国民肌着」と称されるまでになりました。



1934年 フルファッション靴下生産開始



1946年 メリヤス肌着の生産開始

1960～

新素材の用途開発で 「技術立社」 グンゼの挑戦が始まる

石油化学工業の急成長とプラスチック樹脂の消費拡大により、新規事業としてプラスチック分野へ進出。まず自社靴下用包装フィルムを生産。1962年チューブ状収縮フィルムを開発し、その後、フッ素樹脂加工・高機能樹脂加工による新商品・新技術を開発。エンジニアリングプラスチック、電子部品など事業展開を拡大し、今や機能ソリューション事業は多様な用途に使用されるBtoBビジネスとして新たなソリューションに取り組んでいます。



1962年 プラスチック事業開始
1973年 緑化事業開始
1983年 エンジニアリングプラスチック事業開始
1984年 グンゼスポーツ(株)設立
1985年 電子部品事業開始



1985年 メディカル開発室設置

1985～

多様化したアパレル事業と 事業の多角化により、豊かな 生活文化を総合提案

消費多様化の時代に入り、アパレル事業の製品ラインナップは拡大し、幅広い消費者ニーズに対応。革新的な機能性とファッション性で、多くのロイヤルユーザーを獲得しました。同時に工場跡地の再開発を進め、衣・住の両面で生活文化を創造しました。



1985年 生活文化の発信地として
ショッピングセンター「つかしん」オープン

1998年 メンズアンダーウェア界の新しい
トレンドとしてボクサーブリーフ
「BODY WILD」デビュー



2001年 Tuchéのコレクション
(レッグウェア)

2010～

拡大する 機能ソリューション事業と、 アパレル事業、 ライフクリエイイト事業を 融合させ新しい価値を創造

高齢化や健康志向の高まりを背景に、アパレル、プラスチック、メディカル、スポーツクラブなどの事業において、新たな価値の創出を目指した製品開発を行い、人々のQOL向上に取り組んでいます。スポーツクラブ分野では、地域と連携した健康寿命延伸のため新しいクラブ運営を始めました。



2016年 術後の肌に優しい低刺激インナー
「メディキュア」



2018年 北大阪健康医療都市「健都」にある
複合商業施設「ピエラ岸辺健都」に
「グンゼスポーツ吹田健都店」をオープン



国土の緑化に貢献する緑化事業では、
大阪御堂筋の銀杏並木も扱っています

中期経営計画 「CAN 20」

人々のクオリティ・オブ・ライフ(QOL)の向上に貢献する健康・医療関連分野を成長の核とするとともに、集中と結集によりそれぞれの分野で業界オンリーワンを目指していきます。

コンセプト	集中と結集
推進期間	(第1フェーズ) 2014年度～2016年度 (第2フェーズ) 2017年度～2020年度

3つの基本戦略を強力推進

セグメント
事業戦略

新規事業
創出

経営基盤
強化

シルク

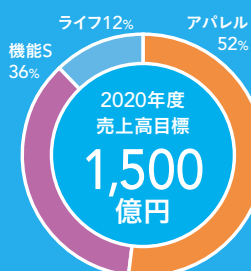
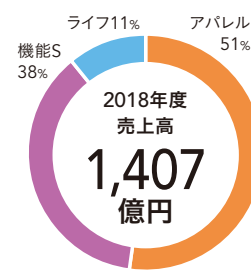
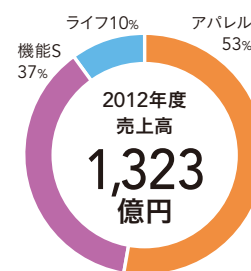
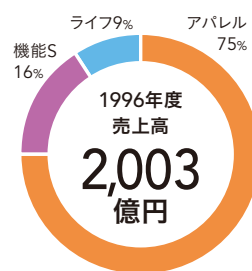
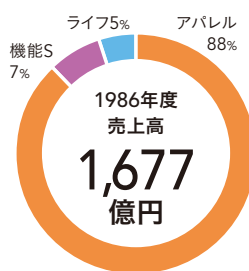
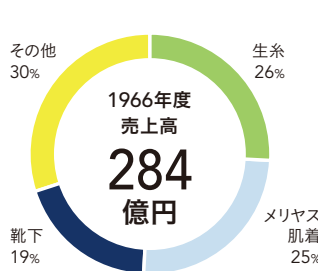
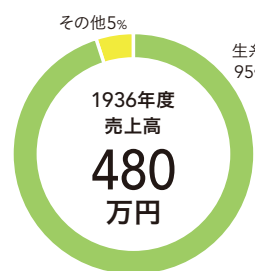
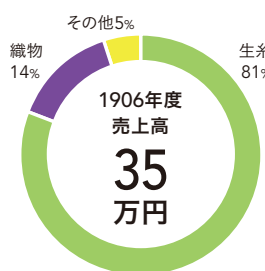
ストッキング・メリヤス肌着

アパレル事業

機能ソリューション事業

QOLに貢献する製品・サービス

ポート
フォリオの
変化



時代背景

●パリ万国博覧会

●世界恐慌
●第二次世界大戦

●戦後復興と産業の近代化
●高度経済成長

●バブル景気

●バブル崩壊

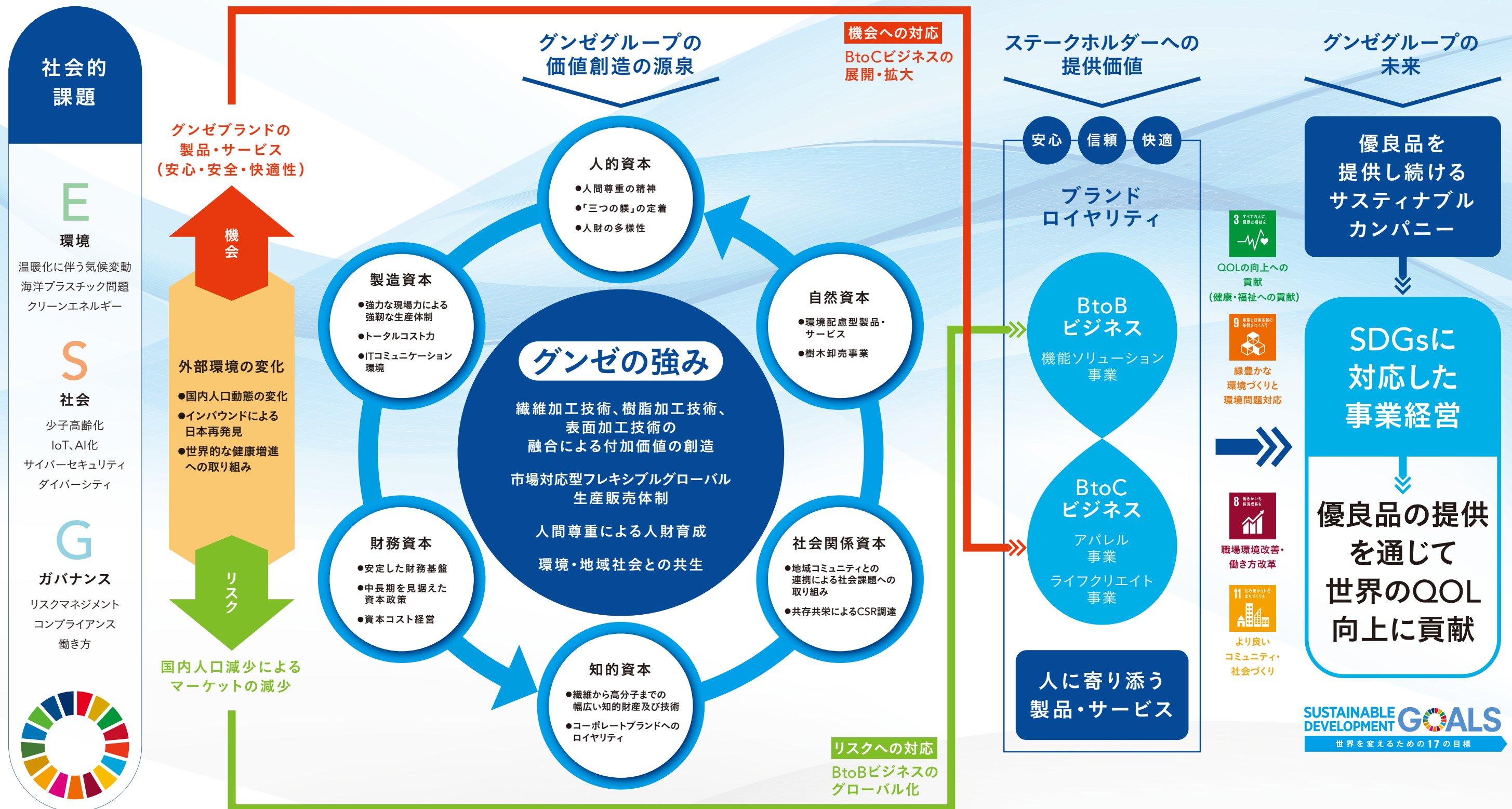
●リーマンショック

●少子化・超高齢社会の到来
●ライフスタイルや価値観の多様化
●安全・安心への意識の高まり

ROE 5%以上

グンゼグループの価値創造モデル

グンゼグループでは、さまざまな社会課題に取り組み、
お客さまとともに緑豊かな笑顔あふれる地域社会の中で、人々が明るく、楽しく、元気よく、
いきいきと健康に過ごせる未来を目指します。



セグメントの連携、事業部門間の協働によりスピーディに新たな柱商品を生み出す



機能ソリューションセグメント管掌役員
代表取締役兼常務執行役員 佐口 敏康

1984年3月 入社
2014年6月 取締役就任
取締役兼執行役員、プラスチックカンパニー長
2017年4月 常務取締役兼常務執行役員、経営戦略部長
2018年6月 代表取締役兼常務執行役員、経営戦略部長に就任(現任)

現状認識と課題

機能ソリューションセグメントは、プラスチックフィルム、エンジニアリングプラスチックス、電子部品、メディカル、メカトロの5分野からなります。2018年度経営概況は、プラスチックフィルム分野、エンジニアリングプラスチックス分野が、いずれも差別化商品の拡大などにより好調に推移しました。また電子部品分野は構造改革が順調に進みましたが、これからの柱事業として成長を期待しているメディカル分野は治験費用などの増加により減益となりました。全体では中期計画に対し順調な進捗状況となっていますが、部門間では格差が生じているのが課題です。その課題に対して、順調な部門に対しては、次のステージを目指して前倒しの取り組みを進めますが、目標未達の部門は徹底した要因分析により乖離状況を挽回する取り組みが必要です。

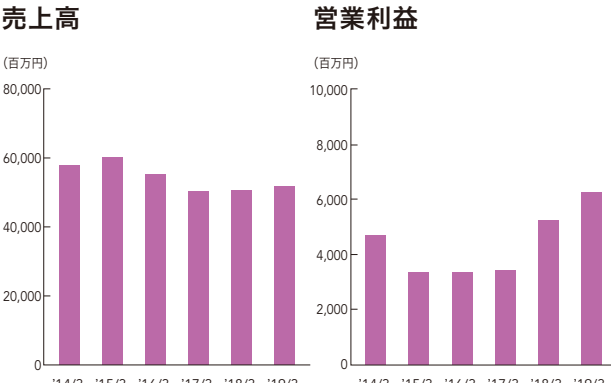
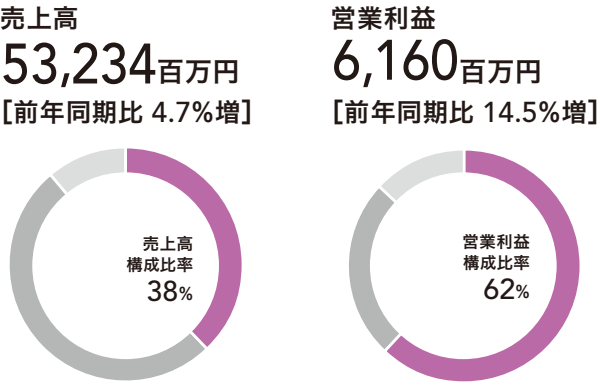
基本方針と主な取り組み

このセグメントは、グローバルウェイトが3割強と比較的高い状況ですが、攻めの戦略により新たな顧客を獲得し、さらにウェイトを

高めていきます。供給体制においてもプラスチックフィルム分野ではベトナム新工場の稼働、エンジニアリングプラスチックス部門では江南工場の再開発など強化策を実施していきます。今注目されている海洋プラスチック問題への対応としては、現在進めている減量化による環境負荷の低減に加えて、バイオマスなど再生可能プラスチックの商品化に取り組みます。またメディカル分野では4月より医療機器販売会社である「メディカルユーアンドエイ」を完全子会社化し、更なる販売体制の強化につなげていきます。

注力するテーマ

当社の機能ソリューションセグメントは独自の技術を活かして、ニッチな市場での展開を得意としています。今後、この分野での継続した事業発展を実現するためには差別化と協働が不可欠です。お客さまのニーズに合致した差別化を実現し、セグメントの各部門同士が協働して新たな価値を創造する。この活動により顧客満足度を高め、当社事業を成長させていくことが機能ソリューションセグメントの使命と考えています。



	製品・サービス	概要	CAN20戦略課題
プラスチックフィルム分野	●シュリンクフィルム ●ナイロンフィルム ●OPPフィルム ●軟質多層シート	飲料、食料品、トイレタリー用品や、もやし類などの生鮮食品の包装フィルムなど、生活に密着した商品の開発、製造、販売。	●グローバルマーケティングの強化により、海外販売を拡大 ●機能特徴を明確にした差別化商品の開発・展開 ●プラスチックグループの一体運営による市場競争力の強化
エンジニアリングプラスチックス分野	●転写ベルト ●フッ素薄肉チューブ ●一般産業用機能部品	複写機やプリンタなどのOA機器や、産業分野の製造工程で使われる機能部品の開発、製造、販売。	●高性能、差別化、価格対応、及び顧客ニーズ対応によるOA機器ビジネスの活性化 ●技術活用による新市場創造と高機能化への対応強化
電子部品分野	●機能性フィルム ●タッチパネル ●受託加工	タッチパネルや機能性を高めた各種フィルムの開発、製造、販売。	●機能ソリューションの現有リソース(機能、技術基盤、顧客接点)を活用し、既存ビジネスを強化、新規領域進出へ挑戦
メディカル分野	●吸収性組織補強材 ●吸収性骨接合材 ●人工真皮 ●人工硬膜	「生体内吸収性」に着目した医療機器の開発、製造、販売。QOLの向上、医療従事者の負担を軽減することを目指し、高い技術力により国内に留まらず、グローバルに展開。	●新工場建設、新商品開発への積極的な経営資源の投入 ●生産・販売体制整備により事業を拡大し、早期に柱事業へ育成
メカトロ分野	●包装・パッケージ向け機器 ●印刷周辺機器	包装・印刷・乳業・飲料・食品加工・医薬関連の各業界へ省力機器などの機械設備を設計、製造、販売。	●既存設備の更新、メンテナンスを中心とした展開 ●継続的な新商品の開発・展開

トピックス

ベトナムに新会社設立(プラスチックカンパニー)

プラスチックフィルムの成長著しいASEANエリアを中心とするグローバル需要への対応のため、ベトナム社会主義共和国に新会社を設立しました。ASEANエリアにおいてプラスチックフィルムの生産設備を新設することで、トイレタリー用途を中心に伸長している当社ハイブリッドスチレンフィルムなどの差別化製品のグローバル市場での更なる展開拡大をはかります。

Gunze Plastics & Engineering of VietnamCo.,Ltd.

販売革新、生産革新の強力推進による
成長拡大と強固な経営体質への変革



アパレルセグメント管掌役員
アパレルカンパニー長 阿武 克也

1979年3月 入社
2014年4月 執行役員、アパレルカンパニー
インナーウェア事業本部次長兼生産本部長
2015年4月 執行役員、技術開発部長、CTO
2016年6月 取締役就任
取締役兼執行役員、技術開発部長、CTO
2017年4月 取締役兼執行役員、技術開発部長
2019年1月 取締役兼執行役員、技術開発部長、アパレルカンパニー長
2019年4月 取締役兼執行役員、アパレルカンパニー長（現任）

現状認識と課題

2018年度は、インナーウェア分野にて、BODY WILD「AIRZ」などの差異化商品のヒットに加えて、カットオフなどの主力商品、スポーツカテゴリー商品が順調に推移しました。レッグウェア分野ではSABRINAなどの主要ブランドを核とした拡販に取り組みましたが、トレンドの変化や気候影響を受け苦戦しました。アパレル部門では、売れるメカニズムを追求し、ヒット商品を生み出す開発力を強化するとともに、量販店等の各流通の最新動向を踏まえたチャネルごとの取り組みを進め、EC販売・海外販売においても更なる強化が必要です。繊維資材分野はミシン糸のグローバル展開を強化しており、ベトナム工場の本格稼働を行いました。今後はアジア全般のシェアを拡大し、グローバルウェイトを上げることが必要です。

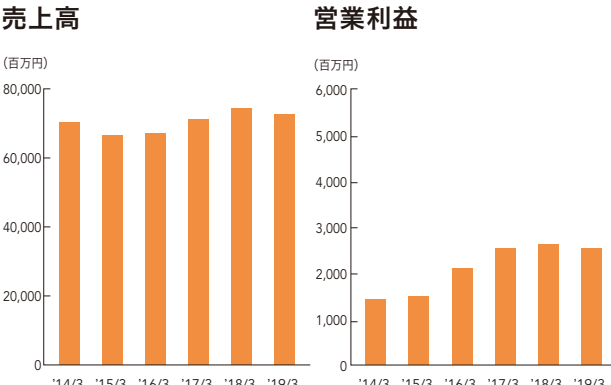
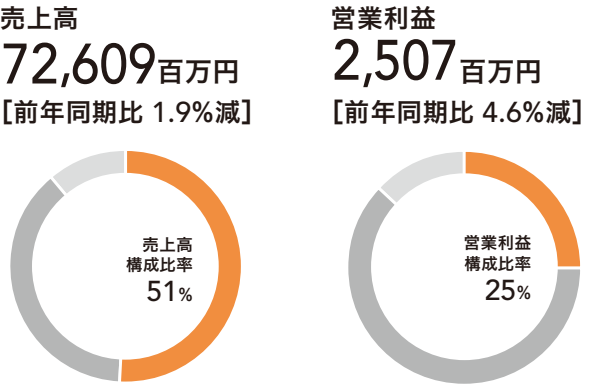
基本方針と主な取り組み

2019年度は「販売革新による成長戦略の実現」「新機軸追求による成長拡大」「生産革新による収益改善」と3つのテーマに取り組みます。「販売革新」としては、魅力ある新商品の開発と

訴求力強化に加え、販売・営業活動の効率化を進め、拡販と収益性の改善を行います。「新機軸」として、レディスインナーの重点拡販、及びEC販売などの成長販路を重点化いたします。「生産革新」では、ASEANシフトによる最適生産体制でのコスト構造の変革、生産基盤再構築による現場力強化、高付加価値技術による市場競争力強化を進めます。繊維資材事業は中国を中心にASEAN、南アジア向けへ拡販いたします。

注力するテーマ

インナーウェア分野は、BODY WILD「AIRZ」の展開店舗拡大に加え、完全無縫製・カットオフ商品、スポーツカテゴリーの拡販をはかってまいります。レッグウェア分野は、市場トレンドと消費者潜在ニーズを先取りした新市場・新商品開発に努めてまいります。また、アウターも含めたEC・小売などのリテール分野の更なる成長をはかってまいります。激変する市場環境の中ではありますが、この状況をビッグチャンスと捉えて、革新的な取り組みを実行し、強固な経営体質を再構築いたします。



	製品・サービス	概要	CAN20戦略課題
インナーウェア分野	● メンズインナー ● レディスインナー ● キッズインナー	多様化するニーズに応え、さまざまなコンセプトに基づいたインナーウェアブランドを展開。	● 差異化商品の開発強化により、レディス分野を中心に積極拡大 ● ECビジネスなどの成長拡大
レッグウェア分野	● ストッキング ● レディスソックス ● メンズソックス	女性の“美しくなりたい”という思いをかなえるために、ファッション性と機能性の両面からアプローチしたレッグファッションを展開。	● NBの発信力強化とメディカル関連商品の開発 ● 新ライフスタイルの企画拡充
ハウスカジュアル分野	● ナイトウェア ● ホームウェア	素材や機能にこだわったナイトウェアや、ライフスタイルをより楽しむためのホームウェアなどを展開。	● ライフスタイルの提案による新需要の創造
繊維資材分野	● 縫製資材用ミシン糸 ● 産業資材用ミシン糸 ● 自動車資材用ミシン糸	新機能を備えた各種ミシン糸や、より高い安全性が求められる自動車エアバッグ縫製用ミシン糸など、衣料用から各種産業資材に至るまで幅広く展開。	● コスト競争力強化と販売体制確立によるASEAN、南アジアでの拡販 ● 顧客ニーズに対応した生産体制と迅速な供給体制の確立
リテール分野	● cocochi select by GUNZE ● GUNZE the shop ● GUNZE OUTLET ● ジーンズ・カジュアルダン ● トライオン	● 直営店、アウトレット、カジュアルウェア専門店などを展開。	● 直営店舗の成功モデル店舗構築と拡大 ● 小売事業取り込みによる店舗開発・運営ノウハウの共有

トピックス

小売事業取り込みによる事業領域の拡大と
店舗開発・運営ノウハウの共有

海外のスケートボード・ストリートブランドを中心に全国のセレクトショップに商品を販売している株式会社トライオン社長の高山克巳が執行役員に就任しました。リテール分野での更なる事業拡大を目指して、今後もお客さま目線での店舗運営や個性的で新鮮なファッション提案を発信し続けます。

執行役員に就任した高山克巳

QOLの向上に貢献することで グンゼブランドの価値向上に取り組む



ライフクリエイトセグメント管掌役員
グンゼ開発(株) 社長 赤瀬 康宏

1982年4月 入社
2010年4月 執行役員、人事・総務部長、CHO代理
2013年6月 取締役就任
取締役兼執行役員、人事・総務部長、CHO代理
2014年6月 取締役兼執行役員、人事・総務部長、CCO、CHO代理
2017年4月 取締役兼執行役員、人事総務部長
2019年4月 取締役兼執行役員、グンゼ開発(株)代表取締役社長(現任)

現状認識と課題

ライフクリエイトセグメントの2018年度経営概況は、商業デベロッパー分野ではショッピングセンター事業において、つかしん(兵庫県尼崎市)が台風や地震等天候の影響を受けたものの、全体としては地域に密着した運営により堅調に推移しました。賃貸事業は、新規案件が貢献しました。またスポーツクラブ分野では、特化型ジムや24時間ジムの新規出店が加速する中で、既存店の会員数が減少したため苦戦しました。環境緑化分野は、樹木販売部門、花卉販売部門ともに苦戦しました。課題としましては、ショッピングセンターの活性化や、スポーツクラブ市場における競争激化に対する他社との差異化、環境緑化分野では、新しいチャネルへの展開、大型物件の獲得に取り組めます。

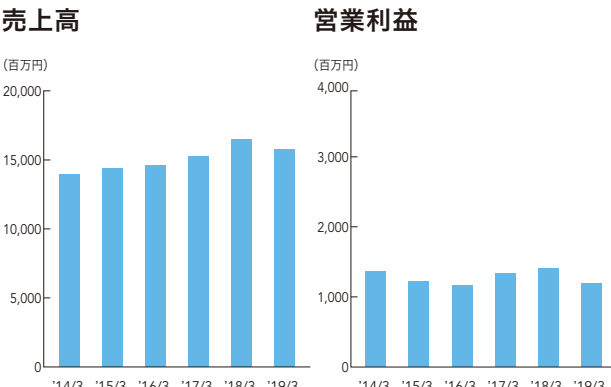
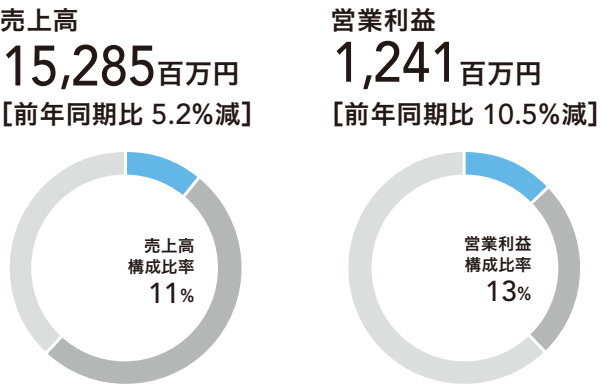
基本方針と主な取り組み

中期経営計画の達成に向け、各分野の課題を明確化して具体的な取り組みを進めていきます。エステイト開発分野で

は、遊休地活用を主体としたビジネスのみならず、グループ資産の有効活用を推進してまいります。つかしんなどの商業施設については、地域密着型、来街者満足度の高いテナントづくりに取り組みます。また温浴施設「湯の華廊」はリニューアル効果を活かし利用率を向上していきます。スポーツクラブ分野では、店舗特性に合わせた会員獲得活動の推進、差異化できる魅力ある店舗の構築に取り組めます。環境緑化分野においては、首都圏での大型受注獲得や、エリア戦略を推進し、販売力を強化します。

注力するテーマ

ライフクリエイトセグメントは、グンゼの歴史の中で培われた技術やノウハウを活かして事業分野のシナジーをクリエイトし、快適な空間づくりをサポートしています。スポーツクラブでの健康・医療分野への取り組みや、環境緑化分野でのより良いコミュニティ・社会づくりへのサポートなど、QOLの向上に貢献することでグンゼブランドの価値向上に取り組めます。



	製品・サービス	概要	CAN20戦略課題
商業デベロッパー分野	●ショッピングセンター、 温浴施設の運営	工場跡地や施設跡地に設立した商業施設において地域住民の皆さまに快適な空間を提供。	●「つかしん」にしまち北エリア再開発プロジェクト着手 ●「エルミ鴻巣」「前橋リリカ」リニューアルによるコミュニティ型SCの確立
エステイト開発分野	●不動産開発事業 ●賃貸事業	当社保有の土地活用をベースにエステイト(不動産)開発事業やショッピングセンター、住宅・オフィスビルなどの賃貸事業を展開。	●新規開発の推進 (工場跡地の再開発)
エンジニアリング分野	●ESCO事業・ 省エネ診断 ●太陽光発電	省エネ、省資源、PM診断などのノウハウを活用し、ビルや工場などの省エネ化に向け包括的なマネジメントを展開。	●省エネ活動の推進
スポーツクラブ分野	●スポーツクラブの 運営 (全国に22店舗展開※) ※2019年6月時点	地域に密着したスポーツクラブとして、質の高いサービスとメニューを提供。「スポーツを通じて豊かな心と身体を育み、人々の幸せを支援すること」を使命とし、全国でクラブ運営を展開。	●新業態へのチャレンジ ●スクラップ&ビルドによる 体質強化
環境緑化分野	●樹木販売 ●花卉販売	植物材料や苗木の供給を行う「樹木販売」、日々の生活を彩る「花卉販売」など、緑あふれる生活環境づくりを展開。	●安定供給体制の確立を 背景とした全国販売網の 構築 ●企画・提案型営業手法の 確立によるアライアンス型 販売の推進

トピックス

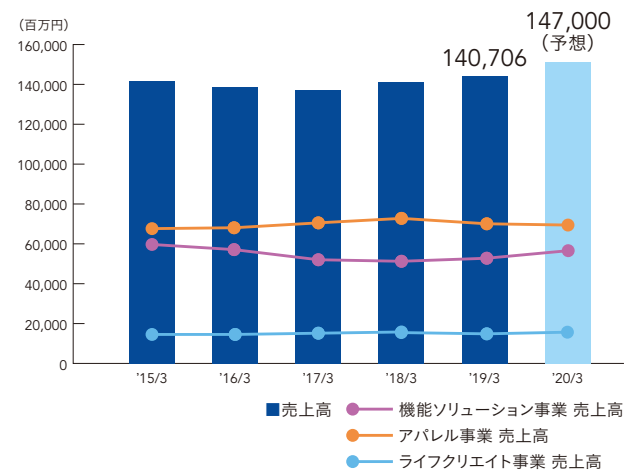
「湯の華廊」リニューアルにより、地域の皆さまに快適空間を提供

今年で15年になるグンゼタウンセンターつかしん(兵庫県尼崎市)にある天然温泉「湯の華廊」が、2018年11月にリニューアルオープンしました。今までになかったリラクシングスペースを備えた別館「癒し蔵」と、天然温泉×炭酸泉のコラボ風呂「癒しの湯」を新設。今後も地域の皆さまに必要とされるような、健康と癒しの快適空間の提供に努めます。

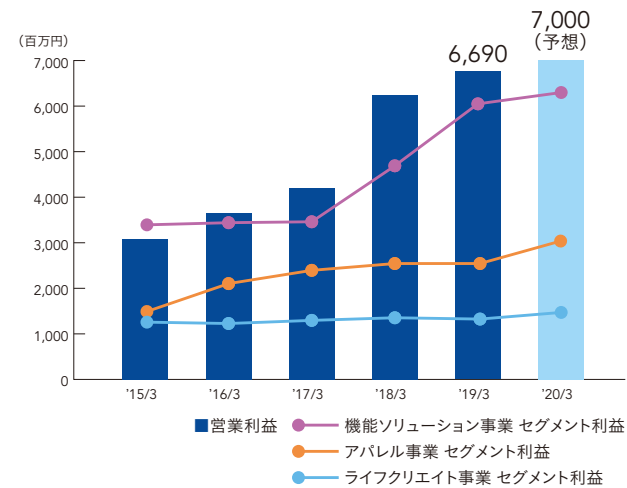
コラボ風呂「癒しの湯」

財務情報(連結)

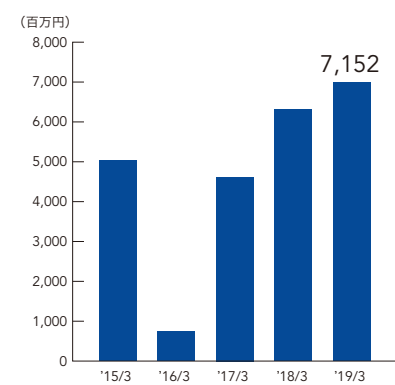
売上高 140,706(百万円)



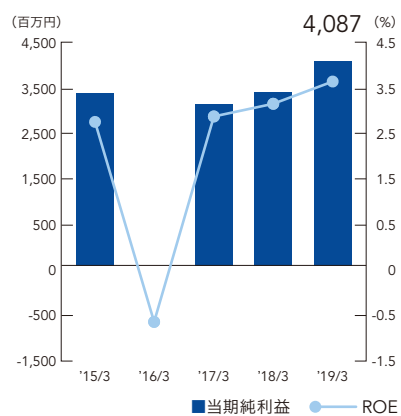
営業利益 6,690(百万円)



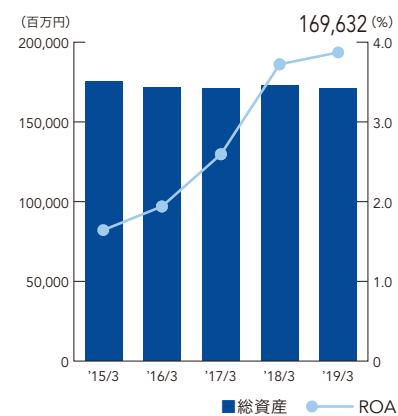
経常利益



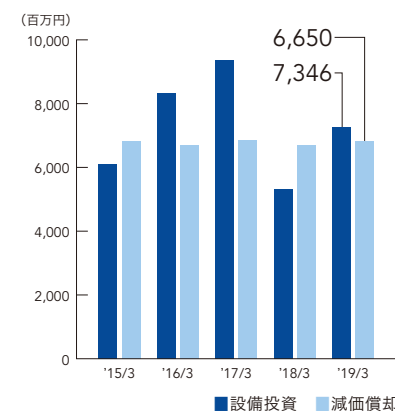
親会社株主に帰属する当期純利益・ROE(自己資本利益率)



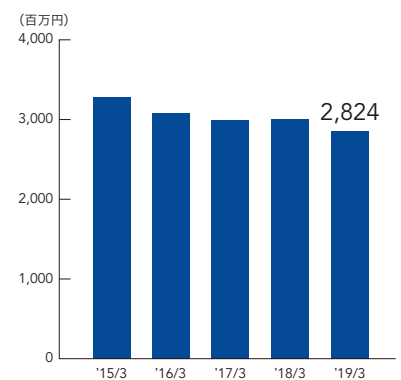
総資産・ROA(総資産利益率)



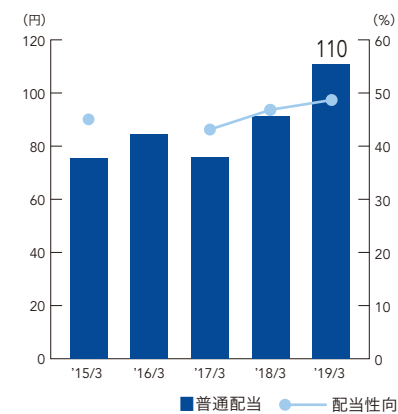
設備投資・減価償却費



研究開発費



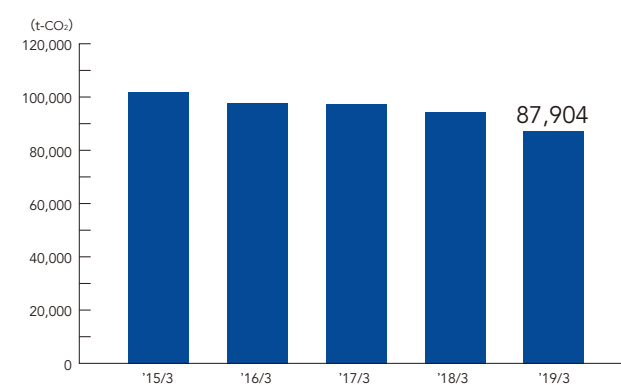
1株あたりの配当金※と連結配当性向



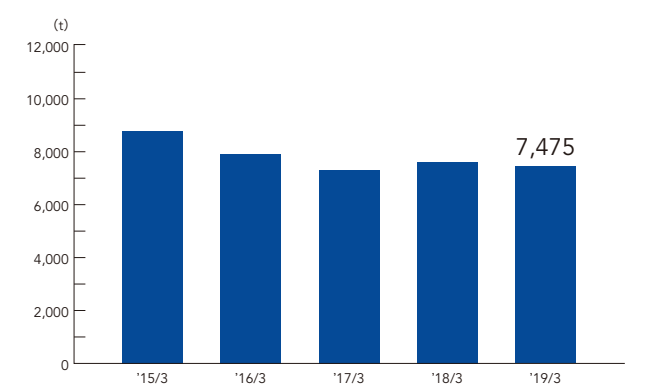
※2017年10月1日付の株式会社(10株を1株)にあわせて、2017年3月以前の1株あたりの配当を換算。

非財務情報

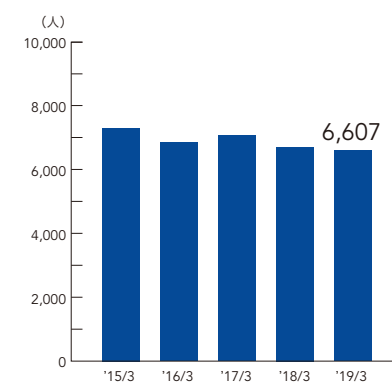
CO₂排出量(国内)※2



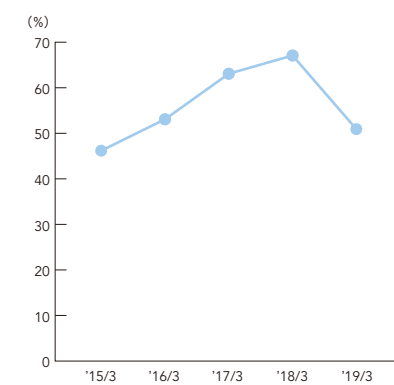
廃棄物総発生量(国内)※2



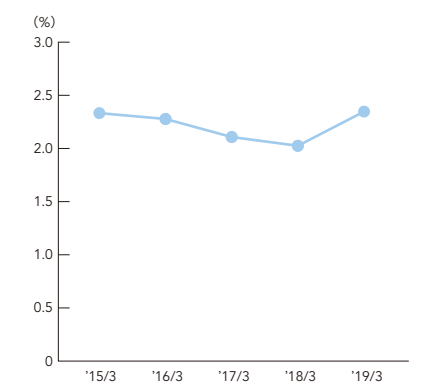
従業員数※2



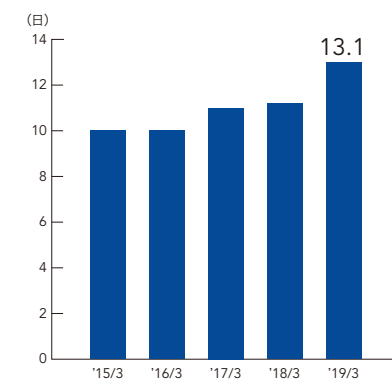
定年後再雇用率※1



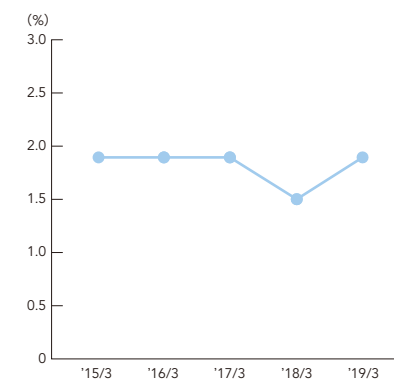
障がい者雇用率※1



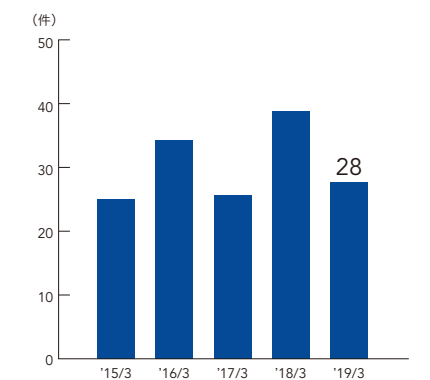
有給休暇取得平均日数※1



管理職に占める女性管理職比率※1



労働災害発生件数※2



※1 グンゼ単体 ※2 連結

Gunzeの資本コスト経営



取締役兼執行役員
財務経理部 部長 熊田 誠

2018年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードは、自社の資本コストを的確に把握した上で、事業計画や資本政策の策定、事業ポートフォリオの見直しや経営資源の配分、政策保有株式への

対応について求めています。Gunzeグループは、2019年度より自らの資本コストを明確にして、経営管理に取り組み、企業価値向上に努めてまいります。当社はこれまでGVA (Gunze Value Added) という経営管理指標を取り入れて事業運営してきましたが、ここ10年程は非常に厳しい経営環境下にあったため、目先の利益を優先して、投下資本に見合う採算性やGVAの改善についての議論から遠ざかっていました。今回改めて資本コストがクローズアップされたことにより、GVA指標を見直すことになり、事業部門ごとにWACC (加重平均資本コスト) を設定することにしました。低収益事業への投資に歯止めをかけるとともに、超えるべきハードルを明確にしましたので、これを上回る投資のみが採択されるようになり、今後はより企業価値向上に向かうものと考えています。次期中期経営計画では、GVAの黒字化、さらには株主資本コストを上回るROE (自己資本利益率) の達成に向けて、ロードマップを策定していきたいと思っています。

資本コスト経営のポイント



Gunzeのマテリアリティ



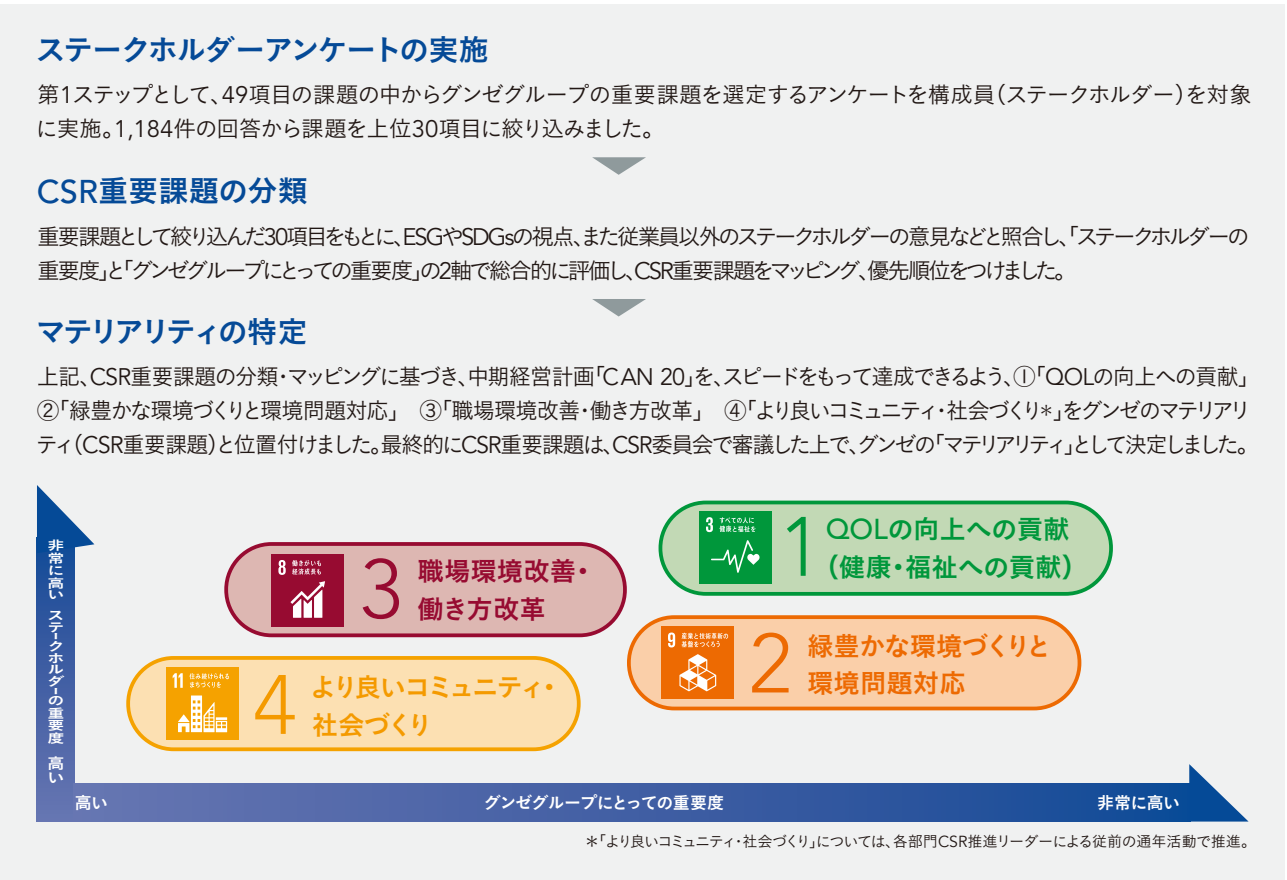
代表取締役兼常務執行役員
CSR・コンプライアンス担当 佐口 敏康

当社の創業者である波多野鶴吉は、全国を遊説していた前田正名の講演に共鳴して地域振興を志し、売上や利益だけではなく「地域

社会の人々」「取引先」「従業員」など会社をめぐるすべての関係者が豊かに暮らせるように心を配った人でありました。明治の時代にあつて、まさにCSR (企業の社会的責任) の最先端を行っていたといえるかと思います。当社では企業経営に最も関連するCSR重要課題を「Gunzeのマテリアリティ」として特定いたしました。創業の精神に立ち返り、当社グループが有する技術やノウハウなどのリソースを活用し、本業を通じて社会課題の解決に貢献する「CSV (Creating Shared Value: 共通価値の創造)」という「攻めのCSR活動」を進めています。2015年国連で採択されたSDGsの17の目標について、社会課題起点で活動を考えるという意味のアウトサイドインのアプローチを参照し、当社グループの4つのマテリアリティに基づき、それぞれの部門ごとにCSV目標とKPI指標を設定し、具体的な課題解決に向けた活動を推進しています。

マテリアリティ (CSR重要課題) の特定プロセス

Gunzeグループは「創業の精神」に立ち返り、本業を通じて社会を取り巻く課題の解決を進めています。



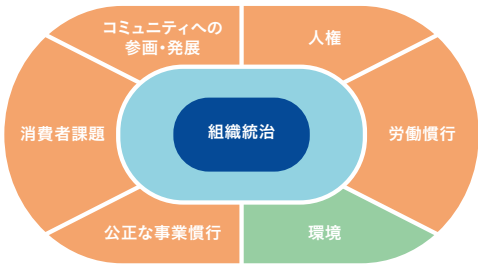
共通価値の創造(CSV)に向けた
2020年度の目標

グンゼグループでは、2018年にグンゼのマテリアリティ(CSR重要課題)に基づきCSR委員会において具体的な実行計画を策定しました。
そして、構成員の具体的な行動を促すために、SDGsとの関連付けによるアウトサイドインの考え方を全員で共有し、中長期的な視野でCSVの実践に取り組んでまいります。



社会課題とCSV目標の関連性を示すために
国際ガイドラインであるISO26000の
社会的責任に対する7つの中核主題に対しても
マッピングを行っています。

E(環境) S(社会) G(ガバナンス)



グンゼのマテリアリティ (重要課題)			ESG	ISO26000 7つの中核主題	グンゼの主なCSV目標	SDGsの17の持続可能な開発目標との関連																	●は主に関連する項目、○は関連する項目	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
1	2	3	G(ガバナンス)	組織統治	サステナビリティマネジメント(CSR基本方針・環境憲章などの徹底)											○		○	○		●	○		
					コンプライアンスの徹底、企業倫理と法令遵守										○						●			
					IR活動(投資家との建設的対話)ステークホルダーとのダイアログ																●	●		
					リスクマネジメント体制の構築(リスクマネジメント委員会など)											○					●			
					データセキュリティとプライバシーの保護																●			
			S(社会)	消費者課題	付加価値の高い医療機器開発(患者のQOL向上に貢献)			●						●			○						○	
					ストレスフリー差異化アパレル商品開発(完全無縫製、カットオフ など)			●						●			○						○	
					高機能包装資材の開発[賞味期限の延長:2020年に133%延長(2017年BM比)]		○	●						●			●		○				○	
					未病ビジネスへの取り組み(介護予防 ほか)		○	●						●			○						○	
				公正な事業慣行	グンゼグループCSR調達ガイドラインの遵守(原材料調達)									○	○		○					○		
					取引に関する法令の遵守と社内浸透										●							○		
				労働慣行	従業員・家族の健康増進(有給休暇取得促進:2020年に15日/年)			●		○			●			○							○	
					経済産業省・健康経営優良法人(ホワイト500)認定獲得			●		○			●			○							○	
					ワークライフバランスの推進(モバイル勤務導入ほか、WEB会議・TV会議促進)								●	○								○		
					グループウェア刷新による業務改革(業務の属人化防止)								●	○										
				人権	人権啓発の推進・ダイバーシティ向上(障がい者雇用と支援体制)	○			○	●			●		○							○		
					女性活躍推進(総合職に占める女性在职者比率:2020年に13%)				○	●			○		○									
			コミュニティへの 参画・発展		地域行政施策との連携強化・地方創生活動の実施				○						○	●	○			○			○	
					地域社会の健康促進参画			○								○	○						○	
					地域社会へ開かれた会社(工場見学、イベント・お祭り など)				○						○	○	○						○	
2			E(環境)	環境	地球温暖化対策[CO2排出量:2020年に21%削減(2013年BM比)]			○			○	○	○	○		●	○	●		○				
					廃棄物削減[廃棄物総排出量:2020年に12%削減(2012年BM比)]							○	○	○		●	●	○						
					環境関連ビジネスの拡大[包装フィルムの薄膜化:2020年に5%削除(2017年BM比)]						○	○	●	●		●	●	○	○					
					環境に配慮した原材料・資材活用(オーガニックコットン、バイオマスプラスチックほか)						○	○	○	○		●	○	○						

① QOLの向上への貢献 ② 緑豊かな環境づくりと環境問題対応 ③ 職場環境改善・働き方改革 ④ より良いコミュニティ・社会づくり

QOLの向上への貢献

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保する。

1 QOLの向上への貢献
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと
環境問題対応

3 職場環境改善・
働き方改革

4 より良いコミュニティ・
社会づくり

コラーゲン使用ゼラチン入り人工皮膚の開発

2018年4月、「コラーゲン使用人工皮膚ペルナックGプラス®」※の医療機器承認を取得しました。人工皮膚は一般的にコラーゲンで構成されており、やけどや傷などで皮膚が欠損したところに使用します。傷に貼ることで私たちの体にある細胞や毛細血管が人工皮膚へ侵入・増殖し、徐々に真皮のような組織に置き換わり治癒します。従来の人工皮膚では難治性潰瘍、特に糖尿病性潰瘍への効果は十分ではありませんでした。日本の糖尿病総患者数は約329万人(平成29年厚生労働省患者調査)と推計されています。糖尿病になると、血流の悪化などで脚に治療が困難な皮膚潰瘍を生じやすく、壊死が進むと切断のリスクもあり、新しい人工皮膚が求められていました。そこで当社製品「ペルナック®」にゼラチンを追加することで、治癒促進効果のある線維芽細胞増殖因子を吸着・徐放する人工皮膚「ペルナックGプラス®」を京都大学医学研究科形成外科と共同開発しました。京都大学にて行われた医師主導治

験では、本製品と線維芽細胞増殖因子を併用することにより、これまで治療に難渋していた糖尿病性潰瘍を含む難治性潰瘍にも効果があることが確認され、脚切断というQOL低下を防ぐことも期待できます。本製品は幅広い領域に応用できる特性をもっており、皮膚再生分野以外への発展も期待されています。そうなれば、もっと多くの患者様のQOLの向上につながるでしょう。

※ペルナックGプラス®の承認内容に、線維芽細胞増殖因子との併用による効能、効果は含まれていません。



MESSAGE

ペルナックGプラス®は着想から15年ほどかかりましたが、2018年4月に製品化していただきました。皆さまのご尽力に感謝いたします。既存同等品の壁を打ち破る性能があり、皮膚欠損、難治性潰瘍治療にこれまでにない効果が期待されます。今後の再生医療分野での応用にも期待される新製品ですのでこれからの展開が楽しみです。



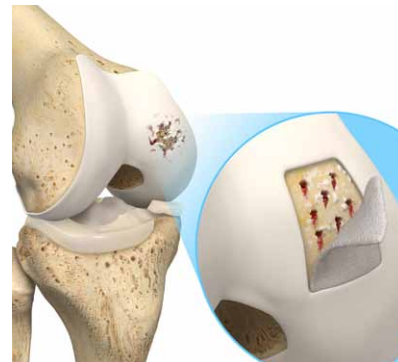
京都大学大学院医学研究科形成外科学
森本 尚樹教授

吸収性軟骨再生基材の開発



QOL研究所 研究室 岩澤亮(左)・井出啓太(右)

グンゼ独自の生体吸収性材料の技術を活かし、自らの組織で修復することを目的とした製品開発に挑戦しています。一度傷つくと再生困難といわれる膝軟骨ですが、私たちは患者さまがご自身の脚で生涯歩き続けることのできる医療を実現するため日夜研究に励んでいます。「ここちよさ」を追求するグンゼだからこそできる、患者さまのQOL向上へ真に貢献する製品を開発します。



2018年に吸収性軟骨再生基材を欧州で認証取得

衣料 から 医療 へ。

MediCure
メディキュア

オストメイトのための やわらかウエストチューブ

GUNZE × アルケア

ストーマ装具を製造販売するアルケア(株)と連携して、オストメイト※のための腹帯「やわらかウエストチューブ」を発売しました。はさみでカットできる素材なので、装具を通す穴を自分に合わせて作ることができるなど、当社のインナー技術を医療用に活用した製品です。実際に着用された方からは「肌触りがとてもよく、外出したくなる」との声もいただきました。今後もこうした製品を開発して、QOL向上のお役に立ちたいと思います。

※ オストメイト:ストーマ(人工肛門・人工膀胱、手術により便や尿の排泄口)を造設された方のこと

医療現場の声から生まれた、 患者さま一人ひとりのセルフケアを サポートする製品「メディキュア」の開発

皮膚裂傷対策の アーム・レッグカバーなど

GUNZE × リブドゥ

尿吸収パッドを装着してもズレにくい、見た目にもよい「ボクサーパンツ」と、高齢の方に多いスキンテア(皮膚剥離)対策に活用できる「アーム・レッグカバー」を、大人用紙おむつ大手(株)リブドゥコーポレーションを通じ、販売を開始しました。介護施設を定期的に訪問するなど、幅広いネットワークを持つ同社の活動を通じて、必要とされる方に、製品やセルフケアに関する情報をお伝えしています。両社が連携することで、排せつケアと肌ケアの両面から、健康で豊かなシニアライフのお手伝いができることを願っています。



スキンテア対策のための
「アーム・レッグカバー」



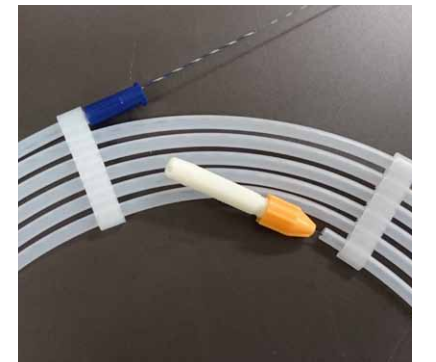
オストメイトのための腹帯「やわらかウエストチューブ」

エンジニアリングプラスチック分野での健康医療関連製品の開発



エンブラ事業部 技術開発センター商品開発課
小林大記(左)・関谷一剛(右)

OA機器開発で培ったフッ素樹脂加工技術を用いて、医療用ガイドワイヤーやカテーテル製造用チューブを商品化しました。滑り性や引裂き性などの機能面はもちろん、操作感や扱いやすさなど、使いごこちの面でもドクターや医療機器メーカーから高い評価を受けております。これら健康医療関連製品を次期柱商品群に育成することを目標に、さらに付加価値の高い新商品開発を推進していきます。



医療用ガイドワイヤー

QOLの向上への貢献

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保する。

1 QOLの向上への貢献
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと
環境問題対応

3 職場環境改善・
働き方改革

4 より良いコミュニティ・
社会づくり

次世代アンダーウェアの開発 ストレスフリーなはき心地を実現



インナーウェア事業本部 MD本部
メンズ&キッズMD部 武安 秀俊



ウエストゴムが無いAIRZ

20周年を迎えたメンズインナーブランド BODY WILDは、2018年7月より、ブリーフ、トランクス、ボクサーブリーフに次ぐ、第4世代の新スタイルとして「解放感がハンパないAIRZ(エアーズ)」を発売しました。最大の特長は、あって当たり前のウエストゴムをなくし、腰回りのストレスを劇的に解消したことにあります。また、カットオフ(切りっ放し)素材の採用で、ウエストと裾の生地のかさばりや縫い目を極小化し、まるで1枚の布を纏うような異次元の着用感を実現しています。生活に快適性を求めるトレンドが顕著になる中、ストレスフリーの概念を取り込み、新しい価値をお客さまに提供したことがインパクトを持って迎えられ、初年度の販売は好調に推移。革新的商品AIRZは、着用者のこころよい生活の実現にも大きく貢献しています。



2019年5月18日、パンタム級の真の王者を決めるWBSS大会で決勝進出を果たしたプロボクサー 井上尚弥さんをイメージキャラクターに起用

スポーツカテゴリーの開発 着るだけで姿勢を正すアクション



インナーウェア事業本部 MD本部
レディースMD部 部長 千葉 あゆみ

スマホを使うことの多い今、現代病ともいえるのが首の痛みや肩こり。その原因は姿勢にもあります。猫背の状態では重い頭を支える肩や背中筋の筋肉が緊張し、血流が悪くなって肩こりを引き起こすといわれているからです。そこで気を付けたいのが正しい姿勢。でも、頭で分かっているでも正しい姿勢を保つのは難しいものです。そこで私たちは、無理なく自然に背筋に意識が向くインナーを開発したいと考えました。Tuché「アクティバランス」では、背中中央部に縦に伸びにくいクロス型パネルを配置することで、背筋が曲がるとパネルが違和感を抱かせる構造。この違和感が姿勢を立て直すサインです。無理に肩甲骨を寄せるのではなく、姿勢を意識する瞬間をつくることで自ら姿勢

を正すアクションにつなげます。着るだけで簡単に自分の姿勢を見直すことのできる、毎日続けやすい健康習慣につながります。



ハクケア商品の開発 足に特化した企業コンソーシアム発足



レッグウェア事業本部 MD本部
企画開発部 瀬戸 亮太

「はく」ことで日常生活における足への負担軽減やさまざまな足のお悩みを解決に導く婦人用レッグウェアとして2019年春より販売を開始した新ブランド「HAQCARE(ハクケア)」。

日本唯一の足病総合病院である「下北沢病院」が、足に特化した企業コンソーシアム「足ビジネスアイデアハッカソン実行委員会※」を発足。この活動の中から、今回下北沢病院監修のレッグウェアを展開させていただくこととなりました。



実行委員会の様子

※足ビジネスアイデアハッカソン実行委員会

足に関わる商品開発の仕事に従事し、社会課題を解決したいと考えている企業や有志が集まり発足した任意団体。お客さまの健康に直結する「足にまつわるビジネス」をテーマに、民間企業が定期的に集まり、事業創造を目指しています。

商品例 高機能すべり止め付き
パンティストッキング

ストッキングの滑りを抑えることで、ヒール着用時のつま先負担を軽減させ、歩きやすくします。



健康・医療のまちづくり グンゼスポーツ吹田健都店



グンゼスポーツ吹田健都店 支配人 村山 功

グンゼスポーツ吹田健都店は、北大阪健康医療都市(愛称:健都)開発プロジェクトのフィットネスクラブとして2018年11月にオープン。健康に「気づき」「楽しみ」「学べる」をクラブコンセプトに掲げて全スタッフが地域の予防医療や健康づくりの推進活動に積極的に寄与してまいります。また、行政や医療機関、関係企業と連携することにより人々のQOLの向上に相乗効果を創出したいと考えています。

健康寿命延伸プログラム グンゼスポーツクラブと富山市、枚方市との取り組み

富山レガートスクエア店の取り組み

グンゼスポーツ富山レガートスクエア店では、官民連携による健康講座を定期的を実施しています。親子向けには、産後の腰痛予防や腰痛緩和のためのストレッチ指導など、今後も地域住民や施設利用者向けにQOL向上を目的とした健康講座を開催してまいります。



健康講座の様子

枚方店(大阪府)の取り組み

グンゼスポーツ枚方店では、市内在住の65歳以上の高齢者を対象にカラダの歪みや日常動作の改善、QOLの向上を目的とした運動教室を週1回2ヶ月にわたり、開催しました。枚方市役所・地域包括支援センターと連携をはかり、介護予防・生活支援サービス事業の取り組みの一環として今後も協力を続けてまいります。



運動教室の様子

緑豊かな環境づくりと環境問題対応

地球環境に配慮した製品・サービスの提供を通じて、地球との共生に努めています。

1 QOLの向上への貢献
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと
環境問題対応

3 職場環境改善・
働き方改革

4 より良いコミュニティ・
社会づくり

緑豊かな地球環境を未来世代へとつなぐ

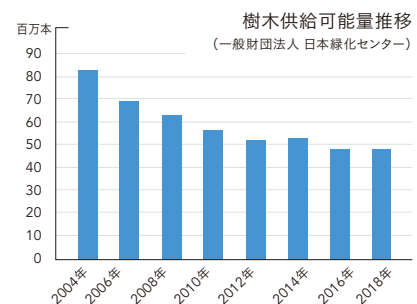


グンゼグリーン株式会社 社長
濱松 陽一郎

地球温暖化はCO₂などの温室効果ガスの濃度が上昇することが原因だと考えられています。植物には、太陽からの光エネルギーを利用(光合成)して、大気中のCO₂を有機物として固定するという重要な働きがあります。特に樹木は、幹や枝などの形で大量の炭素を蓄えるので、樹木を多く販売することはCO₂を削減し地球温暖化を防止することにつながります。樹木販売による2018年度のCO₂固定量は872t(樹木重量の約半分が炭素)で、2020年度には1,008t(2018年比16%)の固定量を目標にしています。

樹木がたくさん生産されるように

街路樹や庭木、マンションの外構などに植栽される樹木は全国各地の樹木生産者によって大切に育てられています。しかし、その樹木の供給可能量は年々減少しています。グンゼグリーンは全国の有力な生産者と協力して品質の良い樹木がたくさん生産されるように販売拡大に取り組んでいます。



「ラグビーワールドカップ2019」の会場となる熊谷ラグビー場がある熊谷スポーツ文化公園の植栽



樹木の出荷(茨城営業所)



幼稚園での緑育授業

子供たちに緑化への関心を

「緑育授業」は、一般社団法人日本植木協会の活動の1つで緑に親しみをもち、もらうために、緑の育て方、環境との関わりを体感してもらう授業です。グンゼグリーンからも「緑育授業」へ積極的に参加しています。

災害(台風や地震)による倒木への対応

2018年は台風や地震により各地で甚大な倒木被害がありました。グンゼグリーンでは全国の樹木生産者とのネットワークで植替えに適した樹木を調達・供給しました。大阪市の御堂筋のイチヨウ並木にもグンゼグリーンが手配したイチヨウの木があります。

「緑」を生活のさまざまなシーンにお届け
樹木だけでなく、母の日のギフト用カーネーションや胡蝶蘭などの鉢花も全国の花の生産者と協働で企画生産しご家庭やオフィスに届けています。



母の日ギフト例

「シュリンクラベルの薄膜化(減量化)」と「分離しやすいラベル設計」で環境配慮型製品の開発



プラスチックカンパニー営業統括部 課長 岡田 信(左)
グンゼ包装システム営業統括部 課長 ミツ木 信孝(右)

プラスチックフィルム分野では、各種包装用フィルムから印刷・製袋まで一貫した包装資材の製造・販売を行っています。循環型社会におけるプラスチック包装材料のリサイクルは重要な課題であり推奨されています。包装資材としてリサイクル可能

な部分を最大限にし、現状ではリサイクル困難な部分を最小限にした上で、分離しやすいトータル設計が重要です。印刷をラベル部分に限定し、分離することにより容器のリサイクル性を高め、さらにラベル部分のプラスチック使用量を減量することにより、環境負荷低減につなげています。

シュリンクラベルの薄膜化(減量化)

グンゼ独自の異種多層化技術によりPS(ポリスチレン)素材とPET(ポリエチレンテレフタレート)素材を積層した「ハイブリッドストレッチフィルム」は、PS素材の収縮性能とPET素材の剛性を両立。ラベルのデザイン性を維持・向上させながら、従来フィルムから約20%の減量を実現しました。

分離しやすいラベル設計

シュリンクラベルを容器から分離させるミシン目において、グンゼ包装システム(株)の技術により、異なった2種類の形状を組み合わせた「ハイブリッドミシン目」が可能に。ラベルを剥がしやすく、容器のリサイクル率を向上させることにより、プラスチック包装材料の循環に貢献しています。



ハイブリッドミシン目

環境に配慮した肌着の開発 (オーガニックコットン素材)



インナーウェア事業本部
MD本部 メンズ&キッズMD部
マネージャー 山田 隆雄



「BODY WILD」「the GUNZE」
他に使われています。

オーガニックコットンは、厳格な生産基準に従い、2～3年以上の生産実践を経て、認証機関に認められた農地で、栽培に使われる農薬・肥料の基準も守って育てられた綿花のことです。化学薬品の使用による健康や環境負荷を最小限に抑え、労働の安全や児童労働など社会的規範を守って製造したものを使用することで、環境負荷の低減につなげます。



肌着になる元の実綿

環境に配慮した コンパクトパッケージの開発



レッグウェア事業本部
MD本部 企画開発部
河村 薫



一般品(左)
より40%縮小

ストッキングは、樹脂外袋、印刷中紙、中台紙という包装資材構成が一般的ですが、チャック付樹脂袋のみという包装形態も2018年3月より販売しています。携帯に便利なコンパクトサイズで出し入れしやすいチャック付き。中台紙がないのでサツとはけ、ゴミが少ないエコ仕様(重さは5分の1)。ユーザーメリットの多い新パッケージとなっています。



コンパクト仕様のパッケージ

職場環境改善・働き方改革

一人ひとりの意識改革と業務改革を推進し、
グンゼの企業価値向上をはかっていきます。

1 QOLの向上への貢献
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと
環境問題対応

3 職場環境改善・
働き方改革

4 より良いコミュニティ・
社会づくり

会社をカエル 自分もカエル ～グンゼの働き方改革～

カエル活動4つの視点からみてきたこと



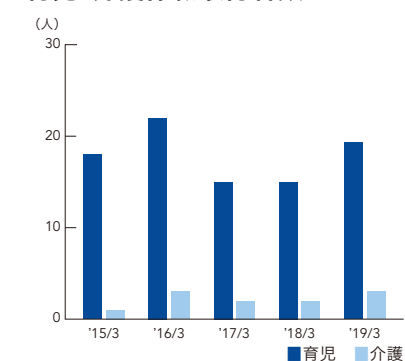
人事総務部 人財開発室 飯村 麻里子

2017年から「カエル活動」としてスタートした働き方改革は、4つの視点をもとにして、慣習や業務の進め方の改革、環境整備や制度改正といったいわばインフラとしての「会社をカエル」ことから進めてきました。構成員の皆さんも制度を活用して働き方を変えたり、自己啓発にチャレンジするなど、「自分もカエル」ことも徐々に浸透してきているのではないのでしょうか。ただ、「自分もカエル」ことでさらに「会社をカエル」、つまり働き方改革の真の目的である生産性・競争力の向上という成果につなげていくには、むしろこれからが本番であり、まだまだ工夫が必要ではないかと思っています。人財開発室としては、あまり制度活用いただいていない「柔軟な働き方」を好事例の紹介や導入アドバイスを行うことで促進したり、自己啓発で高めたスキルを上司の方々と情報共有することにより業務での実際の活用につなげたいと考えています。働き方改革により構成員の皆さんがもっともっと「会社をカエル」、成果につなげることを支援していきます。



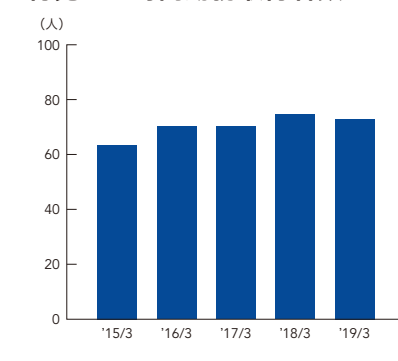
2018年度データ※

育児・介護休職取得者数

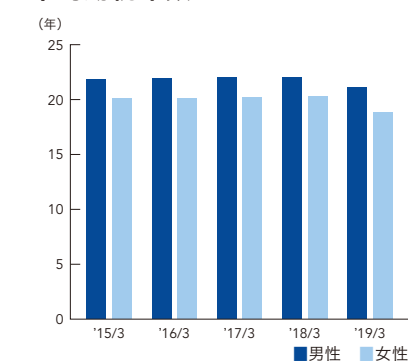


※グンゼ単体

育児の短時間勤務取得者数



平均勤続年数



グンゼ株式会社 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

●あるべき姿：個人のチカラを十分に発揮し、きらきら輝ける働きがいのある男女フェアな会社。

- 計画期間：2018年4月1日～2021年3月31日(3年間)
- 計画内容



グンゼは、2015年1月15日から、「大阪市女性活躍リーディングカンパニー」認証企業に認定されています。

施策およびその目的	指標	2017年度 2018/3/20	2018年度 2019/3/20	2020年度目標 2021/3/20
女性活躍推進状況の訴求	総合職に占める女性比率	9%	10%	13%
	新卒・キャリア採用※総合職のみ	34% (2015-2017年度平均)	30% (2016-2018年度平均)	38% (2018-2020年度平均)
コース転換に応募できる人材の増加、一般職の人財力強化	一般職女性のコース転換Aの応募者数	2人	1人	6人
人的ネットワーク構築による定着支援とキャリア開発支援	採用10年前後の新卒採用者の継続雇用割合(女性総合職)	48%	62%	60%
育児・介護や配偶者転勤などの“止むを得ない事情”による退職者の再確保	※継続雇用割合＝9.10.11年度前の新卒採用者(2007～2009年度入社)の当年度(2019年度3/20時点)時点の在籍者数÷9.10.11年度前入社者数×100	男性60%(参考)	男性81%(参考)	
配偶者転勤などの“止むを得ない事情”による退職防止				
ライフイベントによるキャリアダウンの防止				
退職者の不安解消。業務配分・育児環境などの共有により職場体制を整備	女性管理職の人数	6人	6人	8人
育児・介護時の時間的な障壁を除き、両立できる環境を整備				

トピックス

働き方改革カエル活動の推進 (アパレル発信の発行)

「働き方改革」についての具体的な取り組みが2017年よりスタートしましたが、それに合わせてアパレルカンパニーでは、在籍者約1,000人強に広く周知するべく毎月1回、「アパレル発信」を発行しています。労働時間管理の徹底と年次有給休暇の取得促進を主眼とした内容ですが、当初と比較すると終業後在社1時間超(時間外労働除く)の発生状況はかなり減っており、さらに発生率ゼロに向けて取り組んでいます。毎月配信すると、さまざまな部所から問い合わせも入り、管理者の働き方改革への意識は高まっていると思います。A4サイズで1枚の通信発行という毎月の小さな取り組みですが、内容を工夫しつつ続けていきたいと思っています。



アパレルカンパニー 経営管理部 高坂 晴代

私たちのカエル活動

WEB会議推進による効率化



経営戦略部 IT戦略室 矢間 清浩

WEB会議を導入して、日本だけに留まらず、日本と海外、海外同士の打合せの回数も増えてきています。離れた地域でのコミュニケーションの活性化につながっており、グループウェアの刷新と合わせて利便性が向上し、働き方改革につながっていると自負しています。また、グンゼの社員同士だけでなく、他企業の方とも打合せできることも、WEB会議導入の効果です。今後、さらに利用推進し、業務の効率化、スピード化につなげていきたいと考えています。

フレックスで仕事にメリハリを



メディカル事業部 商品開発センター薬事課 小来田 知里

2年ほど前にフレックスが導入されてから、活用しています。私のフレックス活用法は、時差の関係上、海外との会議の終了が19時になった時は別日に調整して早めに退社したり、平日の日中にしかできない私用も休みを取らずに時間調整をしています。また、フレックスに変わってから、自分のペースや体調、家庭の事情に合わせて時間管理できるため、メリハリを持って仕事ができますし、その結果、仕事の効率の向上による残業の抑制やワークライフバランスにつながっているのではないかと感じています。

より良いコミュニティ・社会づくり

さまざまな事業を通じて地域の活性化に向けた取り組みを進めています。

1 QOLの向上への貢献
(健康・福祉への貢献)

2 緑豊かな環境づくりと
環境問題対応

3 職場環境改善・
働き方改革

4 より良いコミュニティ・
社会づくり

京都府と地域活性化 包括連携協定を締結

2018年9月28日、京都府庁においてグンゼと京都府は、地域活性化、健康・医療、環境、子ども、スポーツ振興、防災など7分野にわたる連携協定と協働に関する包括連携協定を締結しました。グンゼはこの協定に基づき「移住イベントの開催」「乳がん検診キャンペーン」「京都モデルフォレスト運動」など事業を通じた地域の活性化に努めていきます。今後、グンゼは京都府内の事業所を中心に、下記活動を通し、京都府における地域の一層の活性化に取り組んでいきます。

「地域でなりわいをつくる」 京都府移住セミナー開催

2019年1月26日、グンゼ大阪本社の会議室で「京都府の移住セミナー」を開催。今回は亀岡市、南丹市、京丹波町への移住希望者が対象。京都移住コンシェルジュから、地域や移住者の紹介、実際に移住したご夫婦から地域との関わりなどの話を聞くことができました。



ゲストスピーカーご夫妻への質問の様子



分 野	主な活動内容
地域活性化	移住イベントの共催 「北部産業創造センター」の活用支援への協力
健康・医療	がん対策推進事業への協力
環 境	京都モデルフォレスト運動の推進
子ども	「京のまなび教室」特別講師派遣事業への協力 児童養護施設における卒業時の肌着支援 オレンジリボンキャンペーンの啓発 きょうと子育て応援パスポートへの協賛
スポーツ振興	障がい者スポーツの支援 環境スポーツイベント等への協力
防災	災害支援活動
その他	家畜用衣料の共同開発の継続

企業メセナ活動の推進 グンゼ文化・スポーツ振興プロジェクト

グンゼグループは健康・医療、スポーツ振興、地域活性化などを通じた魅力ある地域社会の実現に向けた取り組みを支援しています。2018年度は、オリンピックなどの国際大会で活躍が期待されるトップアスリートへの支援や、次世代を担う子どもたちが生の舞台に触れることにより、こころ豊かな社会の実現を目指す劇団四季「こころの劇場」京都府公演のボランティアなどを実施しました。



アルペンスキーマー 安藤麻選手



「こころの劇場」舞台装置の設置や撤去作業に参加

「平成30年7月豪雨」 災害の支援

7月9日、「7月豪雨」災害発生時、緊急災害対応アライアンス「SEMA(シーマ)」からの支援要請を受け、紳士、婦人、子供用肌着9,820枚を浸水被害の大きかった岡山県倉敷市真備町の4カ所の避難所へ届けました。避難所では、皆さんに本当にうれしそうに受け取っていただいたとNPOピースウィンズ・ジャパンからの報告がありました。今後も災害時には公共機関との連携をはかり、支援の漏れや無駄を減らし、被災自治体の負担を軽減することを目指します。



肌着を避難所へ届ける様子
特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン提供

都市の発展に貢献 「京都創造者賞」を受賞



授賞式の様子

2018年9月3日、ロームシアター京都で開催された「京都創造者大賞2018」でグンゼは「京都創造者賞」を受賞しました。この賞は「京都ブランド」のイメージアップ、都市の発展に貢献した個人、法人、団体及び商品や技術、サービスなどに贈られるものです。当社は、さまざまな事業展開や新たな交流拠点の創設などによる創業の地・綾部の地域振興への貢献が評価されました。

鴻巣 びっくりひな祭り

グンゼ開発(株)が運営する商業施設エルミこうのすでは、毎年2〜3月に「鴻巣びっくりひな祭り」が開催されます。埼玉県鴻巣市が歴史ある人形の生産地であることをPRするほか、町を明るく元気にすることを目的に行われており、市をあげて取り組み、市民全員でひな祭りを楽しむことはグンゼの創業理念である共存共栄にもつながっています。グンゼグループでは、今後もイベントを通じて地域に根差した活動を行っていきます。



地域ボランティアが一体一体手作業で飾る、エルミこうのすの日本一高いピラミッドひな壇

MESSAGE

京都府では、さまざまな企業の皆さまと連携・協働し、府民の安心・安全の確保や府域の均衡ある発展を目指した取り組みを進めております。グンゼさまには、創業の地を大切にされ、産学公連携による交流型次世代もののづくり支援拠点「北部産業創造センター」の整備や「京都モデルフォレスト運動」への参画など、地域貢献に積極的にご協力いただいております。改めて感謝申し上げます。想定を超える自然災害の頻発や、少子高齢化・人口減少が進む中で、今回の協定では、災害支援活動をはじめ、移住イベントの共催や、がんに関する啓発運動など、多様な分野で連携することとなり、大変心強く思っております。今後も協定に基づくさまざまな取り組みを推進し、府民サービスの一層の向上に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



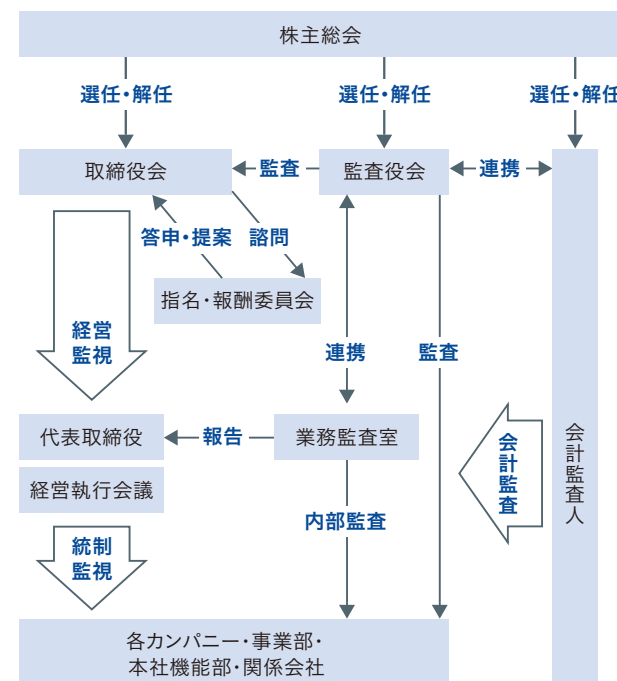
京都府知事 西脇 隆俊氏

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

グンゼグループは、企業価値を継続的に増大させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時適切な情報開示に努めています。経営の透明性向上をはかることによって株主価値を高めることを経営上の最も重要な課題の一つであると考え、その実現のために、各ステークホルダーとの良好な関係を築くとともに、内部統制機能の強化・整備をはかりながら、コーポレートガバナンスの充実に努めていきたいと考えています。

■コーポレートガバナンス体制

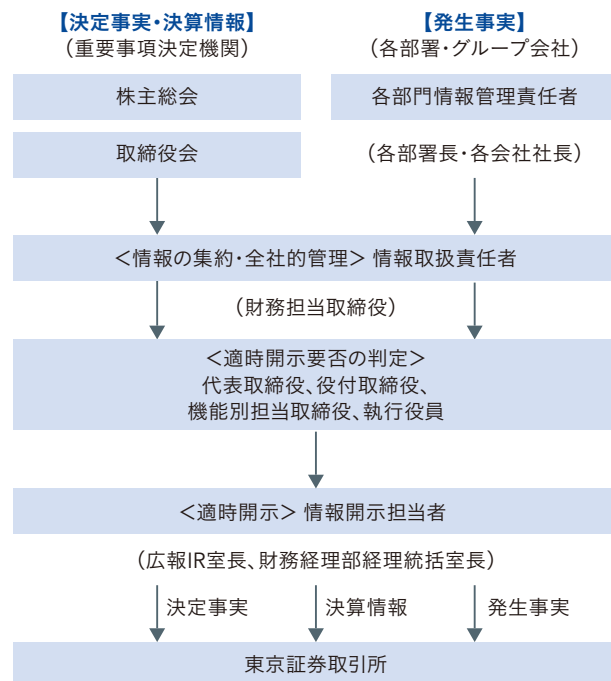


■ 経営執行体制

当社は監査役会設置会社です。現行の経営体制は、社外取締役2名を含む取締役10名（うち女性1名）です。また、迅速な意思決定及び業務執行体制の強化をはかるために執行役員制度を導入しており、取締役兼務者8名を含む執行役員14名を選任しています。なお、経営責任の明確化をはかるとともに経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制とするため、取締役および執行役員の任期は1年としています。取締役会は原則として月1回開催しており、業務執行に関する重要事項や法令、定款に定められた事項の決定を行うとともに、取締役の職務執行状態を監督しています。これと併せて、代表取締役、役付取締役、機能別担当取締役、執行役員6名で構成される経営執行会議を概ね週1回程度開催し、業務執行に関する重要事項の審議を行い、意思決定の迅速化をはかっています。

(2019年7月現在)

適時開示体制



社外取締役

2名の社外取締役は社外の専門的な知識・経験と公正かつ客観的な立場から、取締役会において助言・提言を行うとともに、経営トップ及び取締役などと経営に関する意見交換を実施するなど、当社のコーポレートガバナンスが有効に機能することに寄与しています。

監査役・監査役会

監査役会は社外監査役2名を含む監査役4名で構成しています。監査役は取締役会、経営執行会議などの重要会議への出席、当社事業部門・管理部門への監査、国内外の子会社調査などを実施し、経営への監視機能を果たしています。

会社情報の適時開示に係る社内体制

当社は企業価値を継続的に向上させていくという経営の基本方針を実現するために、コンプライアンスの重要性を認識し、社会・経済環境に対応した迅速な意思決定と適時適切な情報開示を通して、経営の健全性・透明性の向上をはかっています。

ガバナンスを有効に機能させるために



社外取締役 中井 洋恵

当社は、「コーポレートガバナンス・コード」(以下「ガバナンス・コード」といいます。)に基づく「コーポレートガバナンス・ガイドライン」(以下「ガイドライン」といいます。)を定め、ガイドラインに従った有効なコーポレートガバナンス(企業統治)を行っております。2018年にガバナンス・コード改定がありましたので、当社もガイドラインにおける政策保有株式、企業年金、取締役会及び監査役会の指名手続き、承継プラン、及び取締役等の報酬等についての改定を行いました。当



社外監査役 鈴木 良夫

当社におきましては、2015年12月にコーポレートガバナンス・ガイドラインを制定し、最良のガバナンス実現のための体制構築に努めることとなりました。その中で特に私が当社にとって重要と考えるのが、コーポレートガバナンス・コード基本原則第2章「株主以外のステークホルダーとの適切な協働」です。歴史と伝統のある当社グループは、以前から企業理念、社是、行動規範を経糸に、ステークホルダーに誠意をもってその期待に応えており、その精神をもとに公正で誠実な企業活動

社はガイドラインに従って、現在、2名の社外取締役が選任されておりますが、当社の取締役会においては、社外取締役が毎回、積極的な助言・提言を行い、社内取締役との活発な意見交換を行っており、ガバナンスコードに定められた「取締役会は、社外取締役の問題提起を含め自由闊達で建設的な議論・意見交換を尊ぶ気風の醸成」がなされております。さらに、社外取締役は、ガイドラインに基づき、新任取締役並びに新任監査の候補者、取締役等についての報酬等、及び承継プラン等について審議する「指名・報酬委員会（代表取締役と社外取締役で構成され、社外取締役を議長とする取締役会の諮問機関）」に参加し、同審議の場においても、多角的な観点から議論を行っています。その他、ガイドラインに従い、日常的に必要な応じて、社内取締役等に対して説明や報告を求めたり、また、当社では社外役員会合を定期的に開催しておりますので、同会合において、当社の事業及びコーポレートガバナンスに関する事項について協議をするとともに、社内取締役等からの報告を受けるなどしております。このように、当社社外取締役は、コーポレートガバナンスの有効に機能することに寄与するため、その責務を遂行しております。

を推進し、企業価値の向上を図ってまいりましたし、今後も持続的な成長に向けて、長期的な企業価値の向上に努めるべきだと思います。その原点は正に当社の「創業の精神」たる「人間尊重と優良品の生産を基礎として、会社をめぐるすべての関係者との共存共栄をはかる」ことだと思います。この精神をかみ砕き自らの心に植え付け、全員が共有し、変動する社会経済情勢に絶えず対応できる「協働」の在り方を常に模索する前向きな姿勢こそが重要なのだと思います。また、より良いコーポレートガバナンスは、社員のみならず広くステークホルダーの皆さまとの「対話」が基礎となります。この点、当社はコンプライアンスに関する相談・通報の従業員窓口を設置したり、株主との建設的な対話に関する基本方針を定め、寄せられた多くの意見を取締役・経営幹部が掌握し、中長期的な経営方針にも反映させています。更に当社では、私のような社外からの取締役や監査役が重要事項に対して、率直に意見が述べられる環境が醸成されており、実効性の高いコーポレートガバナンス体制の構築を実現するためにも、取締役会等が絶えず問題意識をもって課題に真摯に向き合い、積極的にコーポレートガバナンス・コード対応に取り組むことが最も重要であると考えております。

内部統制システム

リスク管理体制の強化

2018年度のリスクマネジメント活動は事件発生後の情報共有及び事後対策から予防対策に重点を移し、リスクマネジメント委員会を中心にリスク予防に注力しました。働き方改革、個人情報保護、メディカル部門コンプライアンス、海外子会社ガバナンスの4つをリスクマネジメント委員会において重点管理テーマとして設定し、取り組みを強化しています。特に重要テーマである個人情報保護については、2018年5月から適用が開始されたGDPR(EU一般データ保護規則)への対応として、欧州の関係会社から日本への個人データの適正な移転を可能にするために、関係会社との間で標準契約条項の締結を行いました。また国内ECビジネスにおける顧客の個人情報管理を徹底するために社内規程を見直し、関連部所への社内研修を実施しております。メディカル部門においては、「医療機関等との関係の透明性に関する指針」を定め、資金提供に関する情報を公開するとともに、事業の海外展開に伴う各国における法令対応を進め、コンプライアンス体制の強化に努めます。



経営戦略部 法務コンプライアンス室
浅井 一行

内部統制は、適正かつ効率性の高い業務執行、財務報告の信頼性、法令遵守及び資産の保全を目的とするものであり、当社では、広い意味でのコーポレートガバナンスの一部を構成するものと位置づけています。取締役及び執行役員の業務の執行の適正は前掲の取締役会及び経営執行会議により担保され、従業員は企業理念に基づき、法令遵守はもちろんのこと、より広い範囲のステークホルダーからの要請を念頭においたコンプライアンス推進を心がけています。また、当社企業集団の一部をなす子会社については、各会社の監査役による監査及び社外監査役も含めた監査役の連絡会議の開催により、監査の実効性を高める努力をしています。法務コンプライアンス室では、引き続き社内コンプライアンス体制の強化に努めるとともに、研修会などのアウトリーチ活動を通じて、取るべきリスクと最小化すべきリスクの理解を浸透させることで、内部統制を支える一つの隅石としての役割を果たしていきたいと考えています。

相談・通報への対応

社長直轄の内部通報窓口として、「なんでも相談ホットライン」を設置しています。相談や通報に対しては、ハラスメント防止規程、公益通報者等保護規程に則り、被通報者及び関係者のプライバシーに配慮した上で、慎重に対応しています。相談件数は、前年と比較すると減少しました。公益通報者等保護規程に基づく相談件数の実績はありません。今後も、公正・公平な立場で誠実な対応に努めていきます。

リスクマネジメント委員会報告案件

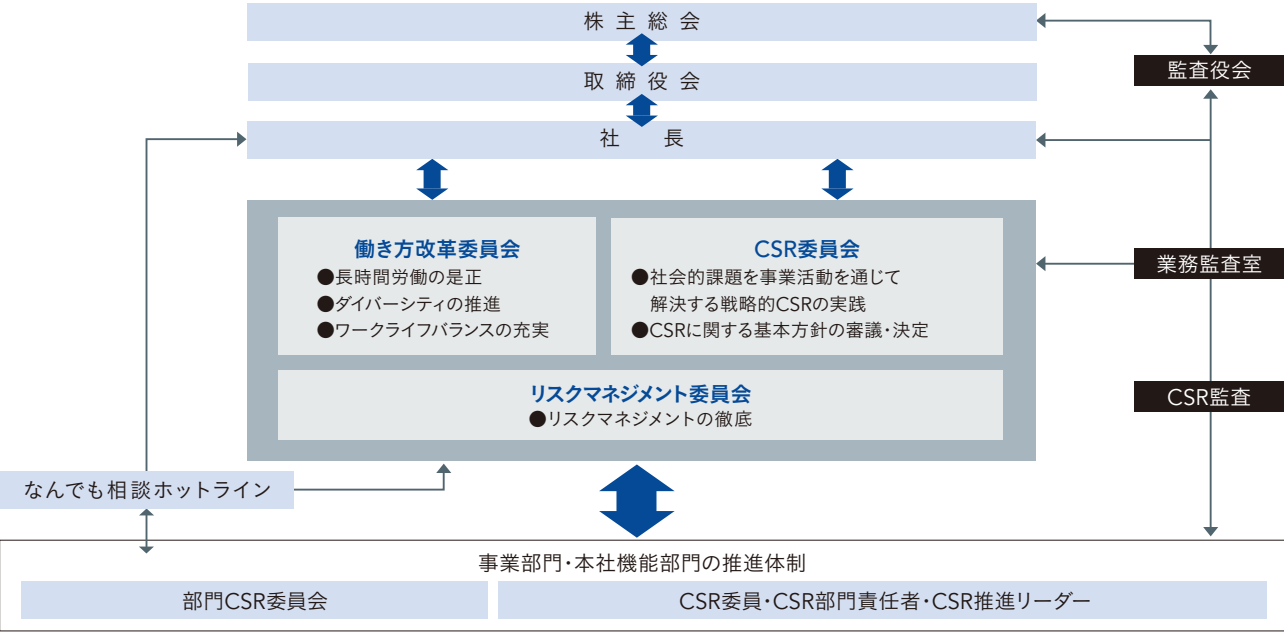
内 容	2018発生	2018予防	合計
海外子会社ガバナンス	2	2	4
情報管理・セキュリティ	1	5	6
知的財産	2	1	3
環境・人権・ハラスメント	0	0	0
労災	5	0	5
製品表示・消費者問題	3	3	6
業法・特別法遵守	2	2	4
契約リスク	3	0	3
火災・自然災害	3	0	3
その他	5	2	7
計	26	15	41

なんでも相談ホットラインに寄せられた通報・相談内容

相 談 項 目	2017年度	2018年度
職場の人間関係	9	4
セクシュアル・ハラスメント	2	0
パワー・ハラスメント	6	6
その他	7	9
計	24	19

CSR推進体制

当社は、「CSR委員会」「働き方改革委員会」「リスクマネジメント委員会」の3つの委員会を設置し、これらの委員会が有機的に連動することにより社会から信頼される企業としてのガバナンス体制を徹底しています。CSR委員会では、CSR担当役員を委員長、CSR委員をメンバーとし、解決すべき社会的課題について自社事業活動を通じて持続可能な社会の実現及び企業価値向上を目指すため、またCSR委員会で戦略的CSRを実践する上での基本方針の審議・決定、ならびに推進事項及び課題への対策を審議します。さらに、CSR委員会の決定事項の徹底や、各部門における次年度展開を計画・実践する組織として「部門CSR委員会」を設置。同委員会での実践状況は、CSR委員会で報告され、活動内容を全社レベルで把握することにより組織的なCSRマネジメントを推進します。



トピックス

SDGs に配慮しCSV経営をどう実践するか(CSR研修会開催)

2018年10月11日、「グンゼグループCSR研修会」(大阪本社・ハービスエント会議室にて)が開催され、全国から120名(午前の部・午後の部各60名)が参加しました。冒頭に廣地社長から「事業活動に資する社会貢献をテーマアップして取り組む。だから、継続していける。だから、全員が参加し実感できる。そういう活動に舵を切ってやっていこう」という方向性が示されました。当日は、企業のCSR活動で経験豊富な笹谷秀光氏(株式会社伊藤園顧問:当時)を講師に迎え、「SDGsに配慮しCSV経営をどう実践するか」について、最新の考え方や事例を交えわかりやすく講演いただきました。午後の部では、CSR推進リーダーを中心に、より具体的で実践的な内容とグループ討議により、非常に多くの気づきをいただくことができました。



グループ討議の様子

笹谷講師からのメッセージ

創業の精神と企業文化を基礎としたグンゼの事業経営のあり方は、今日のCSRの考え方にも即しています。今回の研修会でお話した内容を踏まえて「事業活動を通じたCSR・SDGs活動」を進化させ、より広い視点、より中長期の軸で社会の持続的発展に貢献するグンゼグループとして、さらに飛躍されることを期待しています。



講師にお迎えした笹谷秀光氏(現在、社会情報大学院大学客員教授)

CSR活動をさらに活性化するために

CSR活動優良事業所表彰

当社グループでは各事業所に部門CSR推進委員会を設置、CSR活動を推進しています。

毎年、各部門の活動を表彰することにより、部門の活動を称えとともに

CSR推進リーダー会議などで共有し、CSR活動の活性化につなげています。

1位受賞の部門は、構成員の一体感を醸成する取り組みや、社会貢献のもったいない活動などの

あらゆる分野において幅広く精力的な活動を推進したことで表彰されました。以下は表彰を受けた部門です。

工場部門 部門別順位

1位

メディカル事業部・・・92点



全国労働衛生週間発会式を開催

10月1日、全国労働衛生週間発会式を開催。準備月間中に、安全衛生委員会メンバーなど各推進委員が取り組んだ労働衛生活動についての報告を各推進リーダーから全構成員に向けて行い、あわせて労働衛生に関する優秀標語の表彰式を行いました。また期間中は、明るく元気な職場づくりに活かせるようにコミュニケーションスキルアップのための参考資料を毎日メール配信しています。気持ちのよいコミュニケーションを一人ひとりが心がけて、明るく元気な職場環境を目指してきたいと思います。

- 2位 東北グンゼ・・・・・・・75点
- 3位 綾部エンプラ・・・・・・・74点

オフィス・サービス部門 部門別順位

1位

綾部本社……………93点



「SDGs」が未来蔵の展示に新登場

皆さん、「SDGs」ってもちろんご存知ですね。10名の研究開発部員が世界の未来を変えるために熱く語っている姿を未来蔵1階の大型ディスプレイでご覧になれます。「未来を変えるため、あなたができること」をつぶやけるスペースを新設し、すでにたくさんのメッセージをいただいています。未来蔵で世界の未来を変えるための一歩と一緒に踏み出してみませんか。

2019年6月21日にグンゼ博物館 未来蔵がリニューアルオープンしました。ぜひお越しください。

- 2位 研究開発部(京都)・QOL研究所・・・84点
- 3位 宇都宮物流・・・・・・・79点

社会貢献活動のご紹介(グンゼラブアース倶楽部)

グンゼラブアース倶楽部は、グンゼ創業の精神に基づき、グンゼ創立110周年記念事業として2006年4月に設立されました。会員からの寄付(100円/1口)と会社のマッチングギフトを原資とし、「持続可能な社会形成」のために活動しているNPO団体などへの支援を続けています。2018年度は10団体へ20万円相当の現金または商品を寄付しました。「大阪府みどり推進室」へはグンゼグリーンの協力を得て植樹祭の樹木を提供したり、新規支援先の「みらいこども財団」では支援商品をYahoo!じ付き募金で活用するなど新しい取り組みもあり、一方的な支援ではなくWIN-WINの関係が築けています。



LOVEEARTH®

 および LOVEEARTH®はグンゼ株式会社の登録商標です。

2018年度グンゼラブアース倶楽部支援先(団体名)

J-POSH セーブ・ザ・チルドレン 日本クリニックラウン協会 国境なき子どもたち ロシナンテス アムダ(AMDA) CIVIC FORCE(シビックフォース) ブリッジフォースマイル 大阪府みどり推進室 みらいこども財団

会社概要

概 要	2019年3月31日現在
創立	1896年(明治29年)8月10日
大阪本社	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKAオフィスタワー TEL (06) 6348-1313(代表)
登記上の本店	〒623-8511 京都府綾部市青野町膳所1番地
東京支社	〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目10番4号 グンゼ日本橋ビル TEL (03) 3276-8710(代表)
決算期	3月
発行可能株式の総数	50,000,000株
発行済株式の総数	19,293,516株
資本金	26,071百万円
株主数	23,560名
グンゼグループ会社数	国内 29社 海外 35社
従業員数	1,703名(単体) 6,607名(連結)
上場証券取引所	東京(第1部)
証券コード	3002
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
配当	配当額は、通常6月に決議され、支払われます。
株主・投資家への情報提供	会社案内 グンゼ統合レポート 決算短信 有価証券報告書 IRチャートジェネレーター(WEB)
定時株主総会	毎年6月末までに開催
ウェブサイト	ホームページでは、企業情報や製品・サービス情報を掲載しています。最新の決算情報やニュースリリースがご覧いただけます。
IR窓口	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目5番25号 ハービスOSAKAオフィスタワー

沿革

- 1896 創業者・波多野鶴吉が地域産業振興を目的に京都府何鹿郡(現：京都府綾部市)に郡是製絲株式会社を設立
- 1900 パリ万国博覧会において金牌を受賞
- 1902 輸出生糸を米国スキンナー商会に特約販売開始
- 1909 正量取引を開始
- 1917 郡是女学校設置
- 1933 ニューヨークにグンゼシルクコーポレーション設立
- 1934 塚口絹製品工場でフルファッションの靴下生産開始
- 1946 宮津工場でメリヤス肌着の生産開始
- 1954 ミシン糸事業開始(現：繊維資材事業部)
- 1962 プラスチック事業開始
- 1965 ファンデーション(婦人下着)事業開始
- 1967 社名をグンゼ株式会社に變更
- 1968 パンティストッキングの生産開始
- 1973 緑化事業開始(現：グンゼグリーン株式会社)
- 1974 グンゼ包装システム株式会社設立(プラスチックフィルムの印刷加工・販売)
- 1976 「社是」制定
- 1977 バジャマセンター設置(現：ハウスカジュアルセンター)
- 1983 エンジニアリングプラスチック事業開始
- 1984 グンゼスポーツ株式会社設立
- 1985 メディカル開発室設置(現：メディカル事業部)電子部品事業開始つかしん(塚口工場跡地)オープン
- 1989 SOZ事業本部設置(現：メカトロ事業部)
- 1992 グンゼコーポレートブランドロゴの制定
- 1996 創立100周年(グンゼ博物館 オープン)
- 1998 電子部品事業部設置・エンブラ事業部設置
- 2003 株式会社つかしんタウンクリエイイト設立(ショッピングセンターの運営・管理)
- 2007 グンゼエンジニアリング株式会社設立(エンジニアリング・省エネサービス事業)
- 2013 「明日をもっと、ここよく」ブランドステートメント制定
- 2014 QOL研究所設立あやべグンゼスクエア オープン
- 2015 大阪市女性活躍リーディングカンパニーに認定
- 2016 株式会社ジーンズ・カジュアル ダンを子会社化
- 2017 大阪府と包括連携協定を締結グンゼメディカルジャパン株式会社設立(メディカル材料の販売)
- 2018 京都府と地域活性化包括連携協定を締結プラスチックカンパニーベトナム新会社設立